

香港中文大學日本研究學系

2011-12 年度 日本鹿兒島からいも Homestay 計劃



2012 年 7 月 15 日(日) 至 7 月 29 日(日)

• 目錄 •

I.	活動行程	3
II.	參加學生之訪問報告	
1.	王芷軒	4
2.	鍾靜怡	7
3.	黃漪樺	10
4.	倫霈珊	14
5.	黃樺年	18
6.	何穗華	22
7.	陳佩映	25
8.	姚卓維	31
9.	梁雨衡	38
10.	陳天朗	41
III.	相片	47

活動行程

Day	Time	Plans
Jul 15 (Sun)	9:45	Move to Ikiiki Communication Center from Kagoshima Airport
Jul 15 (Sun)	11:00	Orientation and Meeting Ceremony
Jul 15 (Sun) to Jul 28 (Sat)		Homestay and Daily Exchange at hosting place Family, Labour, Local, School Exchange
Jul 29 (Sun)		End of Program

王芷軒

二零一二年七月十四日至二十九日，這十五天的旅程，讓我感受到截然不同的交流體驗。當初得知這交流計劃的時候，深深被精采的行程吸引著，滿懷歡喜的遞上了報名表。然而，在公佈取錄名單的那一刻，知道自己有幸成為這交流計劃的一員時，各種的憂慮開始浮現出來。自問自己的日語溝通能力並不夠好，要獨自一人在日本家庭中生活兩星期，說真的，難免會有害怕退縮的感覺。直到出發的前幾天，收到從日本交流局發送過來的寄宿家庭資料，才戰戰兢兢的拿起電話，按著資料上的號碼按下去。電話一接通後，一大串的日語洶湧而至，在短短的十分鐘裡，我大概有八分鐘是處於啞口無言的狀態，盡了最大能力都只聽到幾個簡單的單字。那時候，真的有退縮的念頭，但是我知道，我沒有走回頭的權利，只好硬著頭皮展開這十五天奇幻之旅。

七月十五日(日)

那天早上，我們一行十人乘坐八點的航班前往鹿兒島。在等待行李的時候，已經看到有一個人拿著一大支寫著「からいも交流」的旗幟，靜靜地等候著。那是日本交流當局派來接我們的人，我們轉乘了他們安排的車輛到達鹿兒島縣歡迎簡介會的地方。除了來自香港中文大學的十位同學外，是次交流計劃還包括了四位來自香港大學和六位來自澳門大學的學生。由於我的交流家庭是在宮崎縣的，所以我需要與五位同是交流家庭屬宮崎縣的同學再乘坐兩小時的車程前往目的地。沒想到到達宮崎縣時，當局再為我們舉行了一個簡單的歡迎儀式，當中有日本民族的傳統舞蹈，三線鼓的演奏以及傳統歌謠的演唱。經過一整天的折騰，雖然我們都感到很疲累，但看到眼前有數十人為了我們六位宮崎縣交流生而準備的一連串表演，確實被他們的熱情所感動。歡迎儀式過後，我們便各自跟著 host family 回家去。我的交流家庭的名字叫坂本，為了增加親切感，他們都讓我稱呼他們為爸爸媽媽。回到家裡，發現原來坂本媽媽是住在房子的另一端，房子的另一旁有一個大倉庫，是供坂本爸爸媽媽放置耕種的機器以及收割茄子後進行包裝工序的地方。他們向我簡單地介紹家裡後，我們便出發前往宮崎縣交流局準備的歡迎晚會。這次晚會隨了我們自己的六個 host family 外，還有其他有份籌劃這次交流計劃的家庭，超過五十人聚在一起為了讓我們感受日本的傳統文化，實在是太感動。在晚會進行途中，我因為身體不適提早了離開，九時多回到定中便趕快休息了。

七月十六日(一)

昨天晚上因為身體不適，坂本媽媽特別為我準備了粥作早餐，讓我的胃能較易適應。坂本爸媽每天早上五時便會到茄子園工作，因為夏天氣溫太高，正午時分溫室內的氣溫會達至四十度，因此他們都希望能盡早完成工作，不用在最熱的天氣下勞動。八時左右，他們便會從園中回來，與我一起吃早餐，然後再到旁邊的貨倉工作。吃過午飯後，我跟了坂本媽媽到野菜直賣所幫忙，那裡所賣的農產品都是由不同家庭自己耕種的，各人把自己家中所栽種的東西帶到直賣所，像菜市場一樣售賣給別人。在這短短的幾小時裡，每當有客人進行直賣所，我都負責幫忙倒茶給他們。我相信這文化在香港是看不到的，他們不會計較客人是否購買他們的產品，更著重的是客人能在舒適的環境下購物。

七月十七日(二)

今天連同我在內，六個宮崎縣的交流生進行了第一個集體活動：料理學堂。坂本媽媽剛好是這個活動的負責人之一，我跟著她提早了一點到料理教室準備。約十位義務幫務的媽媽教我們做了六款日本食品，基本每一道菜我都未嘗試過，所以在製作過程中我特別好奇。花了大概一個半小時的時間，看到餐桌一整排都是我們所烹調的食物，好一種不可思議的感覺。我知道這個機會不是那麼容易得到的，能夠親自由日本人教我們烹調日本菜，而且是地道的傳統日本菜，有些事情不是有金錢就可以做到，有時候也需要一些特別的際遇，就好像這個交流計劃。

七月十九日(四)

相隔一天，我們一行六人到了再生之森 clean centre 參觀。這是一個處理垃圾分類的地方，首先我們先看了一段影片介紹有關分類步驟及成效，接著我們便直接走到處理廠觀看真實分類過程。在日本，棄置垃圾是需要收費的，因此在街道上很少會見到公共垃圾筒。而且日本人的環保意識十分強，在棄置垃圾前都會先進行垃圾分類。當垃圾被運送到垃圾處理廠時，大部分垃圾已經先分好類，再經人手仔細檢查過後，便會進行壓縮過程，將垃圾面積縮到最小。日本極度重視環保的文化實在讓人佩服，這點在香港尚未能看得到，希望在不久將來看到香港也變成這整潔環保的大城市。參觀完垃圾處理廠後，我們回到再生之森，製作玻璃小珠。處理廠將玻璃溶解後製作成不同顏色的玻璃棒，我們各自選擇了喜歡的顏面後就將它加熱，加熱至玻璃棒溶化時便可製成玻璃小珠。雖然沒有經驗的我們花了一段時間才成功完成，但大家對自己的製成品也感到相當滿意。吃過午餐後，就到了製作玻璃瓶的環節，我們所使用的玻璃瓶都是透過回收得來的。首先在紙上畫上我們喜歡的圖案，將它剪出再貼在

玻璃瓶上，最後使用特別的機械噴上細小的沙粒。這個玻璃瓶製作看似簡單，但有這機會製作屬於自己的玻璃瓶，實在是難得。

七月二十日(五)

今天同是住在高鍋町的三位交流生(包括我)到高鍋町役場進行了行政訪問，與役場的負責人傾談了約三十分鐘。雖然沒有太懂他們在說什麼，但看著他們七情上面的向我們介紹這地的文化，不禁感染到他們對我們的重視。六個小小的交流生，卻受到高鍋町行政人員的接待，實在是三生有幸。接著，役場的代表帶我們到高鍋町四周觀光，包括：高鍋大師、歷史遺物黑木家住宅、高鍋野歷史資料博物館，以及高鍋濕原。雖然這些地方不是什麼著名的景點，但從中可以欣賞到日本最古老、最自然的一面。

七月二十一日(六)

這天，坂本爸媽在家舉行了夏祭派對，邀請了十數位朋友來到家中。下午三時左右，坂本爸爸親自到竹林準備了兩大支竹，用作流水素麵的管道。我跟兩位日本姐姐一起合力完成了竹筒杯子和素麵管道。流水素麵是日本具有傳統特色的食法，用竹子作管道，讓水一直落下流，於頂部放下素麵，在素麵向下滑的時候夾起。這種吃法對我來說很新鮮也很特別，讓我總是覺得這樣的素麵特別好吃。除了流水素麵，還有日本人很喜歡的燒烤，大家一邊喝著啤酒，一邊說著各自的近況，感覺很舒服。這一整晚過得很快樂，因為我的日語溝通能力有限，大家都有盡所學會的英文跟我聊天，日本人的熱情實在讓我感動。

七月二十三日(一)

今天早上吃過早餐後，我跟坂本爸媽到了旁邊的貨倉幫忙。我負責製作盛載茄子的紙箱，紙箱上要蓋上坂本家的名字，寫上茄子的等級和數量。這些工作相對下田耕作，實在不算什麼。完成早上的工作後，坂本爸媽帶我到綾町的相葉大吊橋觀光，那裡是全日本第二高的吊橋，風景優美，空氣清新。由於我有畏高的關係，全程只好緊握著兩邊的扶手，這膽小的表現讓坂本爸媽哭笑不得。之後，我們到了西都市的向日葵園，一大遍黃色小太陽映入眼簾，那風景實在美得難以置信。知道他們為了我能到更多地方走走，開了兩小時車帶我去這些地方，實在很感動。

七月二十五日(三)

兩星期的交流活動很快就完結，今天宮崎縣交流局為我們舉行了一個歡送會。在歡迎晚會出現過的朋友都來了，大家一起食流水素麵和燒烤。每個交流生都分享了對這交流計劃的感想，說著說著，兩星期的回憶片段一幕一幕的湧進腦海。兩星期的時間，不太長也不太短，能深入體驗真正的日本文化，感受到每位日本人對我們的熱情，一切一切都得來不易。在這天，我認識了幾位日本小朋友，雖然我的日語不太好，但他們並不介意，短短幾小時已經變成好朋友一樣，在離開的時候，他們還露出捨不得的臉容。

七月二十九日(日)

眨下眼，兩星期過去了，到了離別的日子。吃過早飯後，便等待朋友的爸爸到來載我們到鹿兒島空港。在那短短的半小時，坂本爸媽不斷提醒我回港時要小心，也跟我說了他們九月會來香港旅遊。那時我便可以出一點點力報答他們這兩星期對我的照顧。有時候也會想，為什麼他們能不計酬勞的接受像我這樣的交流生，他們的熱情，他們的無私，一切一切都讓我很感動。因此我告訴自己，當坂本爸媽到香港的時候，我一定要一盡地主之宜，好好帶他們感受香港獨特的文化特色。



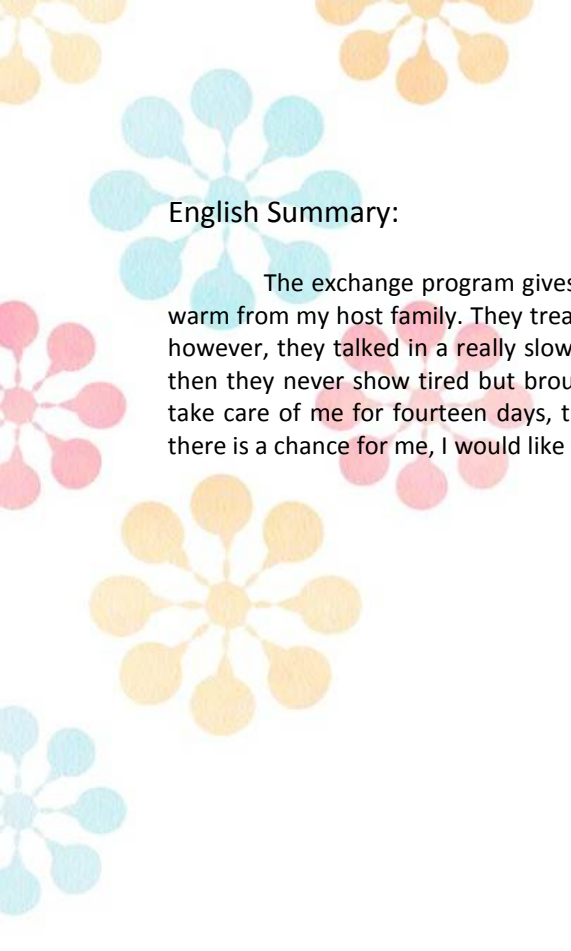
高鍋町觀光



流水素麵



歡送會



English Summary:

The exchange program gives me a valuable chance to enjoy the real Japanese life. In these two weeks, I feel so warm from my host family. They treated me as their daughter. My Japanese was not good enough to communicate with, however, they talked in a really slow mode and even wrote it on the paper. They go to work at five every morning, but then they never show tired but brought me out to walk around. I knew that they didn't receive anything but willing to take care of me for fourteen days, that's not an easy job and I feel so lucky to become a part of Sakamoto's family. If there is a chance for me, I would like to show my town to them and let them feel the difference culture of Hong Kong.

鍾靜怡

私はからいも交流夏を参加して、7月15日から29日までの2週間で宮崎にある川南町に泊まりました。初日は14日のお昼から飛行機で東京へ行き、東京についた頃には既による8時で、東京にあるホテルで1日宿泊することになりました。次の日の朝とても早く起床し、8時の鹿児島行きへの飛行機に乗りました。鹿児島へ到着した後も6人で2時間かけて宮崎の川南町というところへ行きました。アクセスは大変でしたが、川南町についてから盛大なオープニングセレモニーがありました。ホストファミリーさんたちはとても綺麗な服を着たり歌を歌ったり、踊ってくれたり、とても楽しく過ごすことができました。

ホストファミリーのプロフィールでは顔写真がないので、私のホストファミリーは誰かわからなかったのもとても緊張しました。そして対面式でからいも方面の人が学生の名前とホストファミリーの名前を行って外で会うことをしました。私はお父さんと会いましたが、緊張していたのでなかなかしゃべれませんでした。お父さんの車に乗って家に出発しました。それから、二週間のからいも交流が始まりました。

私のホームステイの家庭は宮崎の川南町にあります。川南町は香港と全然違う町です、中でも違いに驚いたところは、どこでも綺麗な青空と緑が見えるところです。畑が多いですが、未開発の森林もいっぱいあります。樹木が多数あり、高さは香港の2倍くらいとても高いです。香港には周りは高いビルばかりなので、川南町みたいな田舎での生活は自然と触れ合う機会が多くて、とてもリラックスすることができました。

ホームステイのファミリーは江崎夫婦です。お父さんは70歳、お母さんは65歳で二人で農園をやっています。ファミリープロフィールを貰った時、びっくりしたぐらいの高齢者ですが実際に会って、とても元気な人でした。江崎農園には、いろいろな農作物がありますがタバコの仕事を生計を立てています。私が、この二週間のからいも交流で一番思い出に残った経験は江崎農園の畑の仕事のお手伝いでした。

私が江崎農園に着いた時、タバコの季節もうそろそろ終わりますが、タバコの葉っぱの乾燥や畑のマルテ剥ぎの仕事がまだ残っていたので、私はこの二つの仕事についての農業体験をしました。どちらも結構体力使うので、大変でした。例えば乾燥したタバコの葉っぱを整理するとき、工場の床から大量のタバコの灰が目と鼻に被るとか、マルテ剥ぎの時の強い日差とか。いろいろ難しかったけれど、私はこのような、タバコの仕事をこれから経験する機会はないと思うので、大切な経験となりました。

からいも交流方面がアレンジしたイベントもとてもよかったです。まずいろいろな日本文化を感じれる活動がありました。例えば、7月17日の料理教室で、私たちは日本の伝統菓子と宮崎的な料理の作り方を教えてもらいました。みんな一緒にだんごや宮崎的な生野菜サラダなどを作りました。みんな日本人の料理教師と一緒に料理を作り、私は料理の勉強だけでなく、日本語の勉強もなりました。ごぼうとかオクラとか、いろいろな野菜の日本語を習いました。オクラなど日本にある野菜が見れて、とても面白かったです。

文化だけではなく、いろんなご当地施設を見学しました。私たちは7月19日に西都市クリーンセンターに行きました。その中にある廃棄物運搬中継施設やリサイクル施設の処理等に行き、日本にはあるゴミの処理方法を習いました。香港にはなかなか日本みたいな家庭ゴミの分類とリサイクルシステムがないので、家庭ゴミがすべて分流せずに埋立処分地に移動してしまうので、毎年大量のリサイクルできるはずの資源が再生されずに浪費されてしまいます。それから処分地の面積を増やさないといけないために、土地の面積が少ない香港では、どんどん大きな問題になっています。日本の家庭ゴミの分類システムは香港と比べたら複雑ですが、大量なゴミが再生品として再使用できるから、環境にも資源の分配にもいいです。もし香港もこういうシステムをやってみたら処分地の問題もなくなると思います。クリーンセンターで日常ゴミの処理を実際に見学したところ、ゴミの量の多さにびっくりしたり、リサイクル工場でゴミを手で分流してるおばさんの仕事厳しさを見たら、これからはもっとエコな生活して、ゴミを減らさないといけないという気持ちが強くなりました。

20日には、川南町の役場へ行政訪問しに行きました。川南町の町長に話したり、役場の見学をしました。川南町は結構小さい田舎の町だけど、行政の仕事の分担はとてもはっきりにしています。農林水産課や会計課など10個以上の課があって、みんなしっかりと自分の仕事を行っています。香港の政府の仕事の分担は割とめっちゃくちゃですから、行政効率がそこまで高くありません。もし香港が日本のような役場の仕事の分担をならしたら、効率ももっと高くなると思います。

行政訪問のあとに、川南町役場の職員が私と同じ交流生の黄さんを連れて、川南町の観光をしにいきました。まず切原ダムに行きました。切原ダムの職員はとても親切で、私たち来る前にダムの解説用のボードやゲスト用のヘルメットを準備しました。ダムについていろいろ農業と科学の説明を受け、いい勉強になりました。例えば治水ダムと利水ダムはダムの壁のデザインが違う。利水ダムの壁に穴があって、余計な水がその穴から自然に流出します。治水ダムの壁に穴ではなく、ゲートがあって、余計な水の流出するタイミングを決めます。初めてリアルなダムを見て、こういう面白い知識をもらいまして、とても楽しかったと思います。

私のホストファミリー江崎家も私を連れて、いろいろところに行きました。7月18日私と同じ川南町でホームステイしてる黄さんと一緒にいきいき塾という高齢者の集会に行きました。そこにいる高齢者といういろいろ喋ったり、アートを作ったりをしました。新聞紙のエコバッグの作り方が教えてもらいました、環境にやさしくて面白い手作りアートでした。高齢者の皆さんはこれを作って、指の運動だけではなく、完成したエコバッグは隣のスーパーで使われるので、社会に貢献するために頑張っています。高齢者の皆さんによく話をかけられました。自分の家庭とか香港とかいろいろについて喋りました。私も黄さんも大体おばあさん達の孫と同じ時代ですから、おばあさんはみんなとても親切でした、おいしい黒糖飴も貰いました。楽しい時間がありました。

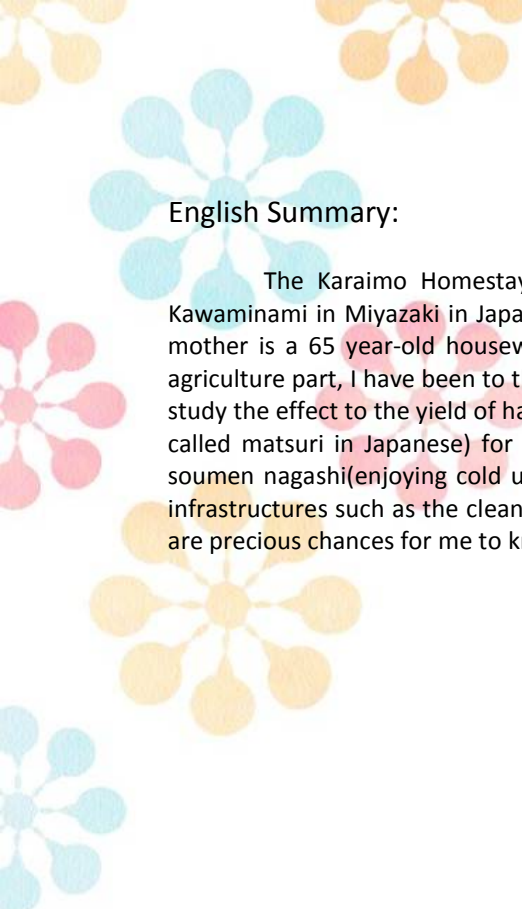
7月21日、私のホームステイのお父さんは私と黄さんを連れて川南町の有名な定期朝市「トロントン軽トラ市」に行きました。140台の軽トラが出店して、とてもぎやかでお祭りっぽかったです。宮崎の名物(マンゴーや肉巻きおにぎりなど)やおいしいお菓子、いろいろ面白いの商品がありました。お店の人はみんなとても親切で、交流生の私たちに話しかけたり、おいしい食べ物をおげました。焼き鳥やソフトクリームを貰いました、田舎にはある人と人の近さと人の親切を感じました、とても楽しかったです。

7月25日は日本語弁論大会とそうめん流しの日です。からいも当局の職員と合計六人の交流生とホストファミリーはみんな小並公民館に集合しました。交流生は日本語の弁論大会で今回のからいも交流の感想についてスピーチをしました、日本語がまだまだ苦手な私達には結構大変な挑戦でしたが、みんなは一生懸命にスピーチのドラフトを書き、日本語の勉強になりました。

弁論大会の後にパーティーがありました。素麺流しをしました。素麺流し用の長いチューブや食具は全部ホストファミリーのみんなが公民館で竹を使って作りました、とてもすごかったです。竹のボウルとお箸は綺麗で特別ですから、貰って帰りました。人生の初めての素麺流しをしまして、日本の夏の文化を感じました。私もほかの交流生のみんなもとても嬉しくて素麺流しを楽しみました。素麺だけではなく、バーベキューとホストファミリーのみなさん持ってきた料理もありました、全部とても美味しかったです。結構交流の終わりに近いですから、それはみなさん最後のギャザリングでした。パーティーの最後にみんな手を繋いで、丸を作って、からいも交流のテーマソング「今日の日はさようなら」を歌いました。皆さんと手を繋いで、本当に国籍や言葉の壁を越えて、一つの家庭になったの感じが出てきて、とても感動しました。

7月28日、別れの前日、お父さんは私と孫二人を連れてトロントン夜市まつりに行きました。私はお母さんに着物を着させて貰って、初めて日本のお祭りに行きました。道路両側にはゲームや食店などいろんな出店がありました。和風のランタンもいっぱい掛けていて、綺麗でした。太鼓とダンスのパフォーマンスもあって、すごかったです。私は花火をしたり、かき氷を食べたりしました。香港では花火は禁止されているので、小さい頃、深圳でやったことがあります、それからは全然やっていませんので、久々の花火は面白かったです。帰る前にお父さんに可愛いアクセサリーを買って貰い、とても嬉しかったです。これらは、素晴らしいメモリーとなりました。

今回のこの2週間のからいも交流を通じてとてもたくさんのことを学んだり、良い経験ができたりと、私の思い出の中の一つとして残るでしょう。まずはこのからいも交流というプログラムに参加でき、かつこのような素晴らしい体験ができたことに感謝したいと思います。普通ではなかなか行けないような田舎へ行き、日本人と家族になって二週間を生活するというとても貴重な体験ができました。言葉の壁やホームシックなどいろいろな問題もありましたが、様々な楽しい思い出を作ることができました。このような体験は香港では中々できないと思うので、とても嬉しく思います。この二週間の交流が終わった今でも、私とホストファミリーの交流がまだまだ続いています、これからも頑張って、メールや手紙でホームステイの家族と連絡を続けたいです。ありがとうございます。



English Summary:

The Karaimo Homestay Programme is an unforgettable experience for me. I have stayed in a town called Kawaminami in Miyazaki in Japan. My host family is the Ezaki's family, which my father is a 70 year-old farmer and my mother is a 65 year-old housewife. I have had lots of exposure to the the Japanese culture and agriculture. For the agriculture part, I have been to the tobacco field of my host family, helping them farming and to a dam in Kawaminami to study the effect to the yield of having the dam. For the Japanese culture part,I have been to the Japanese festival(which is called matsuri in Japanese) for the first time in my life, and having a chance to join the Japanese traditional activity soumen nagashi(enjoying cold udon noodles put in water flowing on long bamboo tubes). I have also been to various infrastructures such as the clean center in Saito city which recycle rubbish and the town office in Kawaminami. All these are precious chances for me to know more about Japan.

黃漪樺

很慶幸今年能夠參與鹿兒島縣からいも Homestay 交流，兩星期在宮崎的生活成為了讓我畢生難忘的回憶。雖然在大學已經學了一段時間日語，但實際能夠應用的機會不多。因此，出發前得知今次能與日本人成為家人，一起生活相處，真的十分期待。出發前幾天才得知我要代表同團的同學們在開幕式致詞，心情非常緊張。幸好當天表現順利，能夠在眾多日本人及同學面前以日語發表，真是一個很難得的機會。

在鹿兒島的開幕式過後，其中一個負責人就載我們到宮崎去。在兩小時的車程中，已經看到周遭滿佈高身的樹木的自然風貌，猶如進入了一個童話森林的國度。到了宮崎，當地的からいも交流組織成員為我們交流生準備了一個小小的音樂會，他們換上富有民族氣色的衣著，手抱結他等樂器奏著跳著帶有當地風味的歌舞，雖然不太聽得懂歌詞的意思，但卻能深深感受到他們的熱情。然後終於與 host family 的爸爸媽媽會面，我的家庭姓小嶋，住在宮崎的川南町。甫到步，就看到那是一個非常漂亮的家，兩層的房子，很有個種滿花的庭園。晚上有個歡迎會，於是下午就跟媽媽一起弄些小食。我們弄的是雞蛋通心粉沙律，後來我發現由於當地天氣炎熱，當地人很愛吃這類的涼拌小食。



第二天吃過早餐後，媽媽就告訴我每天的家事就是要拖地及幫手煮飯洗碗。勞動交流方面，由於爸媽他們擔心在田工作對我來說太辛苦，所以只要求我在工作室裡把青椒入盒便可。表面上入盒的工作很像很簡單，但其實要將大小不一的青椒分類整整齊齊入盒，還要挑走不健康的青椒，其實又費時又費神。完成入盒後，就跟爸媽到一個像批發市場的地方把青椒及青瓜送出。農村地方感覺很舒服，環境優美，可是一到晚上就有很多昆蟲出沒。晚上在我的房子出現了一隻手掌大的蜘蛛，於是我就告訴媽媽，她知道我很害怕所以就替我把牠捉掉。但後來她告訴我，蜘蛛對他們而言有幸運的意思，所以一般他們見到蜘蛛都不會理。

第三天連同住在鄰事幾個交流生同學參與一個叫「料理教室」的活動，一起烹調日本小菜。我們一起弄了團子，其實很像香港的茶糰，還有涼拌青瓜、牛蒡湯等。或許是當地人多數以耕作為生，很喜歡吃酸菜冷菜開胃及消暑。在料理教室除了學會了一些日本料理的烹調方法，還學會了很多食物的日語詞彙。生活了幾天，在飲食上我發現他們會一天三餐都吃飯，有時吃麵也要配上飯，跟香港的飲食真的很不同，可能耕作生活要求大量體力勞動吧。另外，他們吃飯會把飯菜一人一碟的擺放，不似中國人圍著一起吃。傍晚的時候，媽媽讓我一起帶家中的小狗到附近散步。周遭都是農田與樹木，沒有香港的高樓大廈，感覺很寫意。晚上媽媽叫我教她說廣東話，於是我就讀給她聽然後她寫下片假名作拼音。隔天醒來，她就用廣東話跟我說早晨，我看到她的廣東話筆記放在茶機上，看來她早上在復習我教她的廣東話。本是隨意的聊天，但她認真的態度令我十分敬佩，之後幾天她向我請教廣東話時我都更加用心教她。

第四天跟了住附近的交流生家庭江崎太太一起到長者中心探訪長者。在那裡與婆婆們聊天，用舊報紙弄”eco-bag”（環保袋）。婆婆們很喜歡我們，主動走過來問我們很多香港的事情，又問我們對宮崎的印象如何。

第五天與交流生同學們一起去參觀 green center，那裡有垃圾分類的工場。到日本接近一星期，每當扔垃圾也會很困惑哪些是可燃哪些是不可燃。在 green center 終於清楚知道他們是如何把垃圾分類。我很欣賞他們如此有條理地把可再用的資源回收，香港的垃圾收集站是一個令人卻步的地方，因為那裡總是充滿異味。但由於日本人把垃圾分類妥當，平日也見媽媽會把可回收的膠袋沖洗乾淨才扔，所以在那裡意外地不覺得氣味很大。我覺得日本人對環境的關心與態度真的很值得我們學習。在 green center 的工作坊，我們還可以用有色玻璃溶掉再弄成玻璃珠的飾物，另外還有磨砂玻璃瓶。



第七天晚上，媽媽的兒子連同她的孫女一起來吃晚飯。他們都住在川南町，哥哥他在川南市政府的圖書館工作。一開門他使用廣東話向我說「你好」，我十分驚訝。原來他知道我是從香港來，便特地在圖書館借來幾天關於香港及廣東話的書本，好讓我們有話題，他的用心使我十分感動。我也很努力地以日語好好介紹一下香港。我發現他們對香港的認識很少，特別是年紀比較大的爸爸跟媽媽。例如中國與香港的關係、廣東話與普通話的分別、香港是否一個與中國分開的島嶼等他們都不了解，有一次媽媽見我寫明信片還很驚訝中文原來全部都是漢字。

第八天早上，江崎先生帶著我與他家的交流生一起到川南町的早上市集「輕トラ市」，街道兩旁擺滿賣小食的攤檔。經過雪糕店時，有兩個人向我們不斷揮手，原來他們是在歡迎會上的市政府工作人員，他們很熱情的請我們吃雪糕。在市集買了些小食便到江崎先生家吃午飯，然後還跟江崎太太學整蛋糕。晚上跟江崎先生與他的朋友一起吃飯，那個團體是一班年輕時到過外國留學的叔叔。到步前心想跟叔叔一起可能會很悶，怎料他們很風趣，很健談。

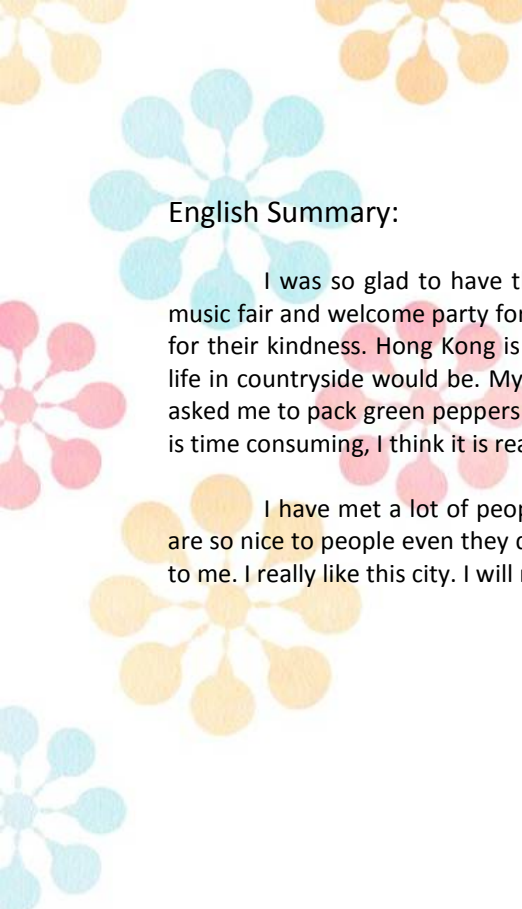
第九天早上到川南役場參與行政會議與市長會面。那裡的公務員向我們一一介紹了各個部門的工作，分工非常清楚。然後還載我們到川南一個重要的水壩，那裡一早已經有人準備好紙板向我詳細介紹水壩對川南町的重要性。可惜內容太過學術性，我不是全部都聽得明，只能靠紙板上的圖文猜測一下。另外還到了川南一個小山丘「峠の里」，在那裡可以看到整個川南的風貌，聽說天氣好的話還可以看到海，可惜那幾天都是陰天看不到很遠。

第十一天，下午是辯論大會。所有在宮崎交流的同學都有來，我們之前要寫一篇感想，分享一下這一星期多在宮崎的經歷與感受。之後我們還吃素麵，剛到步時見到爸爸們當場把竹切開，弄成讓素麵流下的水槽，十分有趣，在香港從沒試過這樣吃麵。然後是燒烤，但日本人的燒烤有點西式，不像香港圍著火爐一起燒。



第十二天，媽媽的女兒從大坂帶同兩個孫女回來。一大清早爸爸便載我們去碼頭迎接她們。媽媽的孫女分別是三歲及十一歲，她們來了自己家變得熱鬧很多，整天在家跑來跑去。第十三天，爸爸媽媽知道我想買些宮崎的手信帶回香港給家人，於是他們特地載我到一個專賣宮崎特產的地方購物。由於我快要走了，還帶我到外面的餐廳吃飯。最後一天，晚上去川南的夏祭，媽媽讓我穿上和服。之前在電視看一直都覺得日本和服很美很想可以穿一下，但原來穿和服一點都不容易，把腰綁得緊緊的，彎不到腰，穿上木屐比穿高跟鞋更難行。晚上的夏祭其實也挺像之前的「輕トラ市」，街上都是滿是賣小食的攤檔。不同的是還有些街頭表演，媽媽的孫女也有份參與跳舞。

天下無不散之筵席，離開時總難掩蓋不捨的傷感。雖然初來時我有點抱著來遊玩的心態，但在短短的兩星期，與小嶋爸爸媽媽的相處，他們真的把我當女兒般看待。想到他們年紀已很大，自己的兒女早走搬出去住，剩下兩老在家，我都不忍離開他們。平日大多都是媽媽帶我出外，因為我是女生，跟媽媽會比較好談。雖然爸爸一副嚴肅的樣子，但其實我知道爸爸心底裡是個慈祥的人。爸爸說話不多，但每天晚上也會問我「今天過得開心嗎？」，我回答「很開心」，他便會說「那太好了」，可見他很關心我是否享受這裡的生活。每當我遇上不明的日語，媽媽都會耐心地慢慢說或用其他簡單的說話解釋給我聽。在這個交流中，我還深深感受到當地人的熱情。有些素未謀面的親戚來到，縱使我日語不好，他們仍會很樂意跟我聊天，慢慢把話說清楚給我聽，有時還不厭其煩地寫出來。在送出青椒的地方只見過一面的叔叔，最後幾天知道我快要走，還送了一束向日葵給我。雖然在這兩星期遊玩的時間沒有很多，不是每天都有密密麻麻豐富的行程，但這兩星期寫意的鄉郊生活是我一生的不會忘記的。我會把小嶋爸爸媽媽當作自己的另一個父母親，他日有機會我也會常回去探望他們。



English Summary:

I was so glad to have the opportunity to join this program. On the first day, the organization had prepared a music fair and welcome party for us. I could feel their passion although I did not understand the lyrics well. I was thankful for their kindness. Hong Kong is an international city with tall buildings everywhere. Before I came, I did not know how life in countryside would be. My mum and dad were afraid that the field work was too hard to me. Therefore, they just asked me to pack green peppers indoor. Packing green peppers tidily was not as easy as I had thought. Realizing the work is time consuming, I think it is really hard for mum and dad to work everyday.

I have met a lot of people and experienced a lot within these two weeks. The people there are so gentle. They are so nice to people even they do not know much. They are talkative to me and willing to share anything about Miyazaki to me. I really like this city. I will never forget everything here.

倫霽珊

其實，當我報這個 HOMESTAY PROGRAMME 時，最期待的是 STAY BEHIND 的旅程，對 HOST FAMILY 不會有什麼期望，特別是當知道爸爸是會社員，自己將不會有任何特別的勞動體驗，例如養豬養牛務農等等，出發之前，已經不會不太期待。不過在出發前一天，自己不忘調整一下心態，始終 WINNKI 先生曾再三提醒我們，想在這個旅程拿到什麼，我希望可以成為他們家中的一份子。

記得第一天，亞由姐姐和浩太哥哥兩人一起到 KARIIMO 交流中心來接我，當時我心想，為何爸爸這麼年輕？！因為先前我看由校方給我的 HOST FAMILY 的資料，我的家人只有爸爸媽媽跟亞由姐姐，一開始對家人的關係好混亂，加上他們帶我去食完午飯後的第一個活動就是看爸爸打野球，當時我一下子見到很多爸爸的朋友，同事，隊友，後來又出現多一位由衣家姐，只是記他們的名字和分清他們的關係就可以令我頭昏腦脹，況且，當時跟他們用日語溝通得不太良好，所以有點混亂的。

我的日語並不是太好，所以家人用他們一般的說話速度和用語，一開始我是完全跟不上和不明白他們的說話，但是哥哥和亞由姐姐都很努力地找辦法使我明白和回應，用盡他們所懂得的英文單詞和身體語言，跟我說明和解釋，配合他們慢慢的日語，我便能慢慢理解，加上哥哥利用手機程式 LINE 中的日譯中的功能，當遇到完全不明白的情況，就可以利用它。

經過慢慢的溝通和我這個每事問的性格，我開始離清各人的關係，原來我的家是很大的，有爸爸媽媽，還有兩位姐姐和一位哥哥，大姐姐準備於 12 月結婚，所以還有一位姐夫，和數不完的朋友們。

在野球比賽的場地，是我第一次見到爸爸媽媽，他們給我的第一印象都是非常友善親切，特別是爸爸，他十分喜愛露齒而笑，很可愛的，我不禁熱情的大叫一聲：「爸爸」並擁抱他一下。

那天是我第一次親身觀看野球比賽，雖然對比賽的規則不太認識，但是我都落力為爸爸和一班隊友打打氣，投入比賽緊張的氣氛中，最終比賽勝利了，爸爸作為球隊中的監督，邀請所有的朋友和隊友到家中舉行派對，這派對除了是慶祝勝利外，還是為我準備的歡迎派對，這夜真是非常熱鬧，各人都很照料我。

當朋友逐一離開後，亞由姐姐就告訴我，由現在起，家裏就只有爸爸媽媽跟姐姐，我這時就明白，原來先前的資料是指同住的家人。不過有一位朋友常常在我們家借宿，當時我不明白他會留下來，但是後來就明白，原來飲酒後不能駕駛，加上明天會一起外出，所以留宿一宵。

到了第二天，星期一，起床後我奇怪爸爸不用上班，悠閒的留在家中，原來這天是公眾假期，叫「海之日」。這天的早飯是吃昨晚剩下的便當，爸爸覺得不好意思，還跟我就對不起，要我吃「隔夜飯」了，當時我覺得吃「隔夜飯」不是什麼問題，只是爸爸太有禮貌了，心裏不禁暗暗地為著擁希這個家而高興。



我在我的個人資料中興趣一項寫了行山，正正因為這樣，他們就為我安排了去郊外行一會兒，又帶我去看海，拜海神，又帶我到家附近的航空史料館中參觀，期間又買禮物，飲料給我。家人和朋友都很喜歡買禮物送給我，常送 HELLO KITTY 和 RILAKKUMA 的東西給我，我又不能不接受他們的心意，使我很不好意思，所以我常常想我能夠給他們什麼。

他們又跟我玩紙牌遊戲，有些會跟香港玩的一樣，有的會不同，我當時學了一個新遊戲，叫 SPEED，都很刺激有趣。

這天，他們第一次叫我幫手洗碗碟，我很高興，因為當我幫忙做家務的時候，我的身份就會慢慢由一個像客人變成一個家人。

因為爸爸是會社員，平日是需要上班的，所以平日晚上都會比較早睡，但媽媽跟姐姐會較晚一點睡，所以晚上的時候，我們会有很多時間傾談，由我讀書，大



學，將來的工作，家人朋友，無所不談，媽媽還問我對這次 HOMESTAY PROGRAMME 有什麼希望，我說我希望你們不要當我客人，當我是家人，你們的女兒，家中大大小小的工作我都很樂意去幫忙的，之後媽媽回答我，從此以後我們就有 4 個孩子，包括我在內。

我差不多每天都打掃，有時會洗碗，有時會幫媽媽一起煮晚飯，我學懂了如何整飯團，日式咖哩，一些涼伴小菜等等。我帶給他們的手信包括了一些香港的醬料例如蝦醬，付乳等和不同口味的出前一丁，我打算為他們煮一餐晚飯，讓他們試試香港菜式，有晚，全家人和幾個朋友一同在我們家試試我所煮的香港料理，有魚香茄子，蜜汁豬扒，付乳炒菜，蝦醬蒸豬肉，和不同味道的出前一丁，見他們把自己親手煮的菜全部吃下去，大家都吃得很高興，真的很感動，事前還很擔心他們會否不習慣那些味道，又擔心自己煮的時候有意外，不過見他們吃得很開心，再辛苦都是值得的。



兩週間，我最辛苦和勞動性最高的就是到亞由姐姐工作的食店中的體驗，當然我是不能直接面對客人，所以我就做最厭惡的工作，就是洗碗，先要把碗碟分類，再沖洗，把客人吃剩的東西清除好，然後把碗碟盤子等放到洗碗機中清洗，之後就把清洗好的碗碟放回該放的位置。從這次的工作體驗中，了解到日本和食是非常講究的，他們會用不同的碟去盛放不同的食物，會用不同的盤子擺放不同的套餐，而盤子中的碗碟擺放也是十分講究，使客人食之前也會覺得賞心悅目；還有，很多客人都眼闊肚窄，一個套餐定食的量是非常多，很多時候客人都不能把食物全都吃光，作為清理的我就常常覺得他們很浪費。在辛勞的工作，姐姐常常走過來跟我打打氣，又會問我累嗎？還好嗎？又常常給我一些飲料和小吃，又會跟我說今晚的晚飯，媽媽會煮好美味的炸豬扒，叫我加加油，為了努力完成工作回家品嚐媽媽的美食，爸爸都等著我回家，其實工作的確令人很疲累，雙腳長時間站立都會累，每一刻很想放棄的時候，只要我想到爸爸媽媽都等你工作完成回來，那一刻無論有多累，也會吃緊牙關捱下去。當完了這天的工作，店長送我一盒壽司讓我帶回家吃，這時我工作後的回報真是非常感動，我也不斷跟店長說謝謝，他真的太好人了！下班回到家已經是晚上九時多了，回到家中爸爸媽媽不斷說辛苦你了，累不累，工作開心嗎等等，待我和姐姐洗完澡坐下來吃晚飯時，已經是十時多，這個時間，爸爸本應去睡覺了，但因為今天我工作回來，特地等我回來，待我吃完晚飯先去睡，爸爸真的太好了，他使我很感動。從這天起，我便發現到，只要有一個值得你為他努力的人，就算工作有多辛苦，都一定能夠熬過去的。




有一次，我跟由衣姐姐到她工作的護老院中練習跳舞，起初我只是以為過來參觀一下並以玩的心態去跳舞，怎料原來我真的要上台一起跳的，姐姐跟我說要保守秘密，不要告訴媽媽，給她一個驚喜。其實，過兩天就是表演的日子，是由衣姐姐工作的護老院的夏祭，前一晚，我努力去看先前錄下來的影片去練習練習，到表演的時候，心情十分緊張，害怕所有舞步都忘記了，不過最後都順利演出完成，很開心，爸爸媽媽也很高興，之後就到由衣姐姐跳舞，我們全家都站起來為她歡呼和打氣，那一刻，我感受這個家真的是很溫暖，家裏的人做任何一件事，其他人都會大力支持，有空的更會到場為他打氣，我真的感受到他們之間的愛；又好像當爸爸某天有野球比賽，總是會全家出動去觀戰，為他打氣，自己心裏真覺得有他們作家人真好，能夠成為這個家的其中一員，真好！



在香港的時候，自己的爸媽甚少跟我談天，但在日本，爸爸媽媽吃完飯就會常常跟我傾談，他們甚至會很關心我將來的工作和結婚的事宜，爸爸有次跟我，希望我快點找到個好老公可以結婚，爸爸是從心底希望我能夠快點找到幸福，我聽到那刻真的很感動，爸爸真的好好，不可能不愛這個好爸爸！

愈來愈接近離開這個家的日子，他們總是帶我遠出，去不同的地方，希望為我留下更多回憶，所有朋友和家人都會回來開派對，他們真的為我做了很多東西，在最後一晚，他們送了我一張卡，卡上有照片，有每一個人對我的說話，收到的一刻實在是太感動了，忍不住哭了，媽媽和姐姐們也哭了，要我離開他們真是很不捨得，他們對我無限的愛，我真的不知道怎樣才可以報答他們，他們還送我一件浴衣，立即為我穿上，他們還不斷叫我一定要回來，回來的時候就不是 HOMESTAY，而是 LONG STAY，我答應他們一定會回來，我一定努力學習日文，為我的家人而努力，為我日後能夠跟他們生活而努力，要努力工作掙錢，回來我日本的家。





English Summary:

I am very happy that I can join this homestay programme because this programme makes my life different. I have one more family in Japan. My host family treated me like their daughter and look after me very well. I love my father and mother very much. I make many friends during the homestay programme. I really got a great experience from these two weeks. I usually thank god to give me this chance to join the programme and thank god to give me the Japanese family. I must come back again to visit them and I treat them as my real family members. I also invite them to come to Hong Kong to visit. I can be their tour guide. Thank who gave me the chance to join this programme.

黃樺年

七月十三日，早早的起了床，最後一次確認自己的行李。二十年來第一次出國，不緊張是假的。小時候看著日本的動畫長大，長大了就去看日劇、學日文，一直想有一天要自己親身去看看，到底是怎麼樣的地方能造這麼豐富的文化產物。我知道這次的 HOMESTAY 交流不一定能解答我的問題，但我認為有機會一個人去一個全新的地方生活，一定會有什麼得著吧！我便懷著這樣的心情到機場去。

到達東京街頭已經是那天晚上十時多的事。因為明早才轉機飛往鹿兒島，我們還可以趁晚上這段小小的自由時間到處逛逛。說是東京街頭，只不過是離羽田機場十五分鐘車程的一個城鎮。這個時間，還在營業的只有便利店和少許食店。但初生之犢來到日本什麼都覺得有趣，我們便一間一間便利店的逛起來。來到日本首先要習慣的是物價這回事，單品全部十元港幣起跳，其實蠻貴的。便利店有別於香港的是，飲品的牌子多到眼花瞭亂，食品方面甚至飯團、冷麵都有售，太方便了！逛了三、四間便利店，然後我們到一間拉麵店吃了碗麵，吹了一會兒涼風就回酒店了。

一早再出發到機場，睡眼惺忪的上機睡覺，一覺醒來已經到達鹿兒島。在機場外有 Karaimo 交流的人來接我們機，載我們到交流中心去。去到才發現原來還有香港大學和澳門大學的學生在等呢！我們一行二十人就靜等著聽主辦人發落。（笑）

一開始已經分了鹿兒島縣和宮崎縣兩批人。鹿兒島縣和交流中心近，大多 HOST FAMILY 都有來接學生們；宮崎縣的較遠，要由其中兩位主辦人去把留學生送到宮崎去。我則是屬於後者。往宮崎的學生算上我有七位，登上往宮崎的車子和主辦人聊天後，我才發現原來我是最特別的一個：原來宮崎縣也有兩個 Karaimo 交流中心，而今年只有我一個人被分到高城市去。就這樣，我在剛進入宮崎縣不久便放下來，原來我的お父さん早已在等我。

第一次見到お父さん，哈，是在一間大型超級市場的門口。因為什麼都不知道，我還以為お父さんは經營這間超市的呢！（其實只是一個約定好「交收」兒子的地點）お父さん個子不高，皮膚很黑，頭髮有點花白，但光看樣子其實不知道年齡。在從超市門口回家的半小時路程中，お父さん並不是興高采烈無所不談地與我聊天，而是很悠然的一邊駕車一邊慢慢閒聊，這反而令我沒那麼緊張。（因為不太會說日文嘛）我還很記得那程車，沒有開冷氣但開著車窗，在筆直的公路上奔馳，好久沒感受到空氣這麼好的夏天。

回到家中，首先來到的是他們的「公司」。一踏進去，才恍然大悟知道お父さんの家是做什麼工作的（Family Profile 沒寫嘛）。是採卵場。我這輩子真的沒看過那麼多雞蛋…我在公司第一次見到了我的お兄さん，還有一直在お父さん公司幫忙のおばあさん。來到剛好是午飯時間，所以大家就圍了在公司的一個小飯桌上吃飯。那一頓並不是什麼大魚大肉，我記得是青瓜，豆腐，味噌湯跟白飯，但真的十分美味。青瓜是用日本醋涼拌的；豆腐上加上蔥花，沾醬油吃。聽說日本人大多都是吃這樣的菜。或許你看下去會覺得很清淡，覺得一定不合香港人口味；但我只是這兩味菜已夠我吃兩碗白飯。

吃過午飯，大家各自各回到工作崗位，我就開始跟著お父さんが在農場走一圈。說是採卵場，當然有雞喇！お父さんの農場有十多間的雞屋，而且還有不同種類的雞屋。原來那是因為飼料不同，生出來的蛋會不同味道，所以必須分開不同環境飼養。雞屋中最多的是一屋分左右兩排，一排分上下欄，雞隻都是困在雞籠，這種雞屋是最密集式的雞屋了，一間起碼有二百隻雞吧。這種密集式的雞屋是餵飼自家調製的雞糧。還有幾間是自由式的，雞隻在一間屋子內可以自由走動，一間大概有五十隻左右，而吃的則是綠草。餵飼雞隻的工作在早上就要完成，所以第一天沒有餵雞喇！除了可以生蛋的成年雞，還有一間大雞屋是養小雞的。小雞們不是自家孵化，而是由孵化場買來的。聽おばあさん說，每三個月就會從孵化場買來一千隻小雞呢！

行完一圈，過了正午，便開始我的工作：收割粟米。先前說過密集式雞屋的雞糧是自家調製的，殊不知材料也是自家種的！整棵粟米樹有一個人那麼高，一棵有一至兩個粟米。不過製糧是要用一整棵粟米樹的，我們要一整棵割下來然後送入切割機剪碎。足足要割一卡車的粟米樹才夠一星期用呢！別看這個粟米樣子不美，它是我這輩子吃過最甜的粟米！！



收割完粟米，我和お父さん到了店面休息，在那兒我第一次見到了お母さん！店面其實就是出售採卵場的蛋和蛋製品，如お母さん自家製的煎甜蛋卷，布丁等，好吃到不得了！

接下來的日子，因為沒有 Karaimo 交流的同學和我同一個市，基本上每天都在重覆差不多的工作：早上一起床吃完早飯就到雞屋餵雞，一車車的雞

糧埋得像山那樣高，然後用人手一間間屋地派雞糧；休息一回後到公司幫忙包裝「今日子」，即是今天早上剛生出來的雞蛋。

完成後開始一天份的選卵工作，即把收集回來的一天量雞蛋送進選卵機，由機器藉重量幫忙分雞蛋的大小。



大小不同的雞蛋。おばあさん教我說，原來小一點的雞蛋是由年輕的母雞生下的，但蛋殼會較光滑；相對大年紀的母雞產下的蛋會大一點的，但蛋殼就會較粗糙。

選卵完畢就會開始包裝雞蛋，看看哪家店要貨而定吧，有時候也會跟お父さん送貨到超市寄賣。

到了下午，每天幹的事都不同，視乎什麼缺吧。有時候會到草地割草給雞吃，有時候會去工場幫忙割粟米樹。還有很多瑣碎事例如幫忙貼紙，封蛋盒的袋等等。晴天時還會去打理一下稻田呢！因為現在是夏天，還未到收成時節，所以去稻田只是去拔草，不過可以感受一下腳踩在水田的感覺，真的很舒服！

每天最後的工作就是要幫忙準備明天的雞糧。我和お兄さん就躲在閣樓的工場上把一包包廿多公斤的原材料倒進一個打的攪拌機，再加入預先弄好的主食糧。主食糧是放在一大個箱內腌好，我和お兄さん每天都要像挖隧道搬把主食挖出來，很好玩！



工作完畢，就去洗澡等吃晚飯。お母さん真的是非常利害，每天他都煮不同的日本料理，這些都是只能在香港的日本料理店能吃到的！！例如日式燒烤，燒餅，火鍋；自助式選自己喜歡的材料包手卷，日式咖哩飯，等等等等，每天不同花款，真的不能盡錄！



日式鐵板燒和日式煎餅

吃過飯，看一會兒電視，自自然然就會覺得睏就去睡了。然後明天起來又是新的一天。

沒錯，這就是我這兩星期的生活。你可能會問，這不會很悶嗎？沒有別的地方去玩，每天都待在農村做一樣的工作，不會厭嗎？

我記得我剛來到お父さん家的時候，很想很想幫忙，不想自己有一刻停下來沒事做，於是我不斷去問お父さんお兄さん他們「有什麼我能幫忙的嗎？」然後お父さん笑著回應我說「不必這樣心急，お父さん工作是很多，但慢慢做。」我這才恍然大悟；一開始看見大家都做得很快但自己做得很慢，整個人也急起來，腦子什麼都想不到只想快點完成。但其實大家做得快，但一點也不急。對呀，お父さん他們每天都在餵雞，當然比我純熟喇！然後我開始放慢調子慢慢做，慢慢感受身邊的事物，你會發現原來同一個雞屋的雞也有不同的性格：性急的、冷靜的膽小的，當你伸手要分糧時他們會有怎樣的反應；幫助把蛋送上選卵機時會發現，原來雞糞多數在大蛋上面，小蛋多數是乾淨一點兒…慢慢，就會在每天重覆的工作之中找到樂趣。

我來的兩星期入面，只有三、四天是沒有下雨的。天晴去了稻田的那個黃昏，我站在田中，腳底踩著泥水，抬頭迎著風遙望四周，才發現原來，人的視野可以去到那麼闊、那麼遠。我在交流兩星期拍照不多，想用眼睛和感官去記下這一切。那一幅光景我到現在還記得。突然才發現我們土生土長的地方多麼的扭曲，使我們應該看見的、應該感受到的，通通都錯過了。お父さん對我說，農村就是 Slow Life。一個人生活的 tempo 是可以這樣影響一個人的心態，這是在這兩星期最大的覺悟。

兩星期很快就過去，轉眼就到最後一晚。お父さん從沒把我當外人，所以沒有因為我的到來和離去多做什麼。最後一天也是一家人一起吃飯聊聊天。那天早上お母さんとお兄さん照常準備工作，お父さん剛送我到車站去。臨別前我們照了一張合照，就這樣結束了兩星期短短的交流。平淡，但滿足。





English Summary:

These 14 days Karaimo homestay are a really unforgettable memory. It's a valuable for HK students to experience country life. Homestay programme allows much more interaction with Japanese people. I remembered how funny we were when I was sharing my personal feeling to my host family with restricted language, using drawings and body language together. Japan is really a good place. I must travel there again.

何穗華

在今年的夏天，我參加了為期兩星期的からいも Homestay 交流計劃，在宮崎県西都市的一戶藍莓園園主的家中住了兩星期，深切地體驗到日文人生活的方式和日本的文化。

日本語

雖然在出發之前已經努力上暑期班、溫習單字去惡補日文，但剛接觸到我的「家人」—水木先生和水木太太的時候，還是會遇上一點小困難。因為日本語的能力還不是太強，所以對於日本人正常的說話速度還不太能適應，在第一、二天生活時常遇到聽不明白的情況。不過水木先生十分友善，透過減低說話速度、用筆寫下來等等，我和水木家也可以聊起天來，對於自己能實際運用到課堂的知識的時候，那種的感覺也真的很愉悅。到後期我發現，生活一陣子後漸漸習慣了他們的說話速度和方式，甚至分辨到他們是否在說九州方言。另外，水木家很好，在空閒的時候也會教我一些日文詞語，使我在今天的旅程後，日語的能力有所提升而且有更大的勇氣說日語。

日本的農業體驗

由於我是住在一戶藍莓園園主的家中，所以也有機會過著日本農民的生活。日本的農民與我們一般對農民的印象十分不同。其實日本農民的教育水準一點也不低、而且掌握著先進的農業知識，也積極學習和投入自己所喜愛的活動上。我住的房間是一間和室，但お父さん怕我不習慣榻榻米，所以在和室中也準備了一張床給我，但整個房間甚至整間屋子都是和式的設計，十分漂亮。和室房間的四面都是推趟式的木門，地上則是竹地毯，感覺簡潔舒服。房子的地板都是木造的，所以在走廊行走時，都會發出大大的聲音。整間屋子雖然只有一層，但面積很大，與香港的屋子完全不能相提並論。

我每天早上大約八時就會起來，梳洗好之後就會去客廳和お父さん一起食お母さん早已準備好的早餐。每天的早餐都是洋食，大概是吃吐司、沙拉、喝牛奶等，有時更有自製的藍莓果醬或者藍莓牛奶，全都是一些能提供我一天精力的健康食品，使我每天都能精神滿滿。平常在香港常常睡起不吃早餐的我，在這此的交流後也令我重拾正常健康的生活模式和規律。在吃早餐的期間，水木家會一起看早間新聞報導和報紙。我也因此而使日本語能力有所提升。另外，我發現宮崎的節目常常以新聞為主，而且也比較集中於報導日本國內的新聞，對於天氣的報導也十分精細而且準確……這些小小的不同也令我覺得很有趣。

吃過早餐過後，也代表著一天工作的開始。由於沒有經驗，所以水木先生沒有怎麼安排藍莓園的工作給我，所以在頭幾天我主要是四處看看，觀眾一下藍莓園的工作程序而已。對於在香港這個熱鬧的大城市生活的我，園中的任何事情都令我感到十分有趣，一大片的樹木、農地，清新的空氣都讓我感到很舒服，而我更加第一次看到大量大粒的藍莓，感覺很神奇。在頭幾天未正式協助藍莓分類等的工作前，我都會幫忙清洗家中和水木先生的小喫茶店的碗碟，也因而發現日本的垃圾分類真的分得很仔細，也因而令我曾一度困惑垃圾要放進哪一項的垃圾分類箱。雖然覺得很麻煩，但也很佩服日本人對於環境保護如此堅持。在其後的幾天，我終於有機會參與到藍莓園的工作，我和其他工人一樣親手逐粒逐粒地把藍莓分類，也會幫助包裝藍莓，對於每樣工序都是每人親手而不用機械努力地做，人手去包裝、分類等，使我也覺得最終出來的商品也充滿濃濃的人情味。

由於夏天是藍莓的收集季節，所以水木家每天都十分忙碌，每天都工作至六時左右才正式完結。正因為辛苦了一整天，每天的晚飯都特別美味。因為水木太太也很忙碌，所以很多時候我們一家都會一起出去餐廳吃，去過家庭式的食堂，也去過大型連鎖式食店，也吃過各式各樣的和式的料理。對我來說，和式料理真的很精緻和美味。不過印象比較深的晚餐多是在家中吃到的，由於水木先生有一個小溫室，所以我很容易吃到新鮮的食材比如青瓜、茄子等。在家中我更第一次吃到生雞蛋拌飯，熱騰騰的白飯拌入新鮮的雞蛋，口感實在很特別。

日本人的情

在日本，除了遇上親切的水木先生和水木太太之外，也遇到不少日本人。他們的友善和熱情也成為了我這次交流最難忘的事。在日本，我發現很多日本人即使年紀不輕，但也會熱衷於學習，投入自己有趣味的活動。當中水木太太便是其中一個例子，水木太太是當地のお母さん合唱團團員。有趣的是合唱團的所有成員都是年齡都在五十歲以上的女士，而我在這次交流中有幸暫時成為小團員，以全場最年輕的身分參與他們的排練。團員們知道我是香港前來的交流生後，都十分熱情的和我打招呼和聊天，有些更向我分享她們到香港的感受。在我離日前參加的最後一次的排練中，團員都叮嚀我回港時要萬事小心，回港至今，我仍然很想念大家一起學唱高音日本歌曲的情景和這麼一班可愛又親切的嬌嬌團員。除了認識了合唱團的成員外，我也認識到西都市的市議員川切先



生。川切先生在大熱天之下帶我參觀西都市妻高高校的運動社團，當我聽不懂日本語的時候用英語、漢字等各我解釋，他甚至介紹他的女兒讓我認識，好讓我也和當地的年輕人溝通，與他一家吃飯的時候我深深感受到日本人的親切，川切太太甚至更我約好會來香港找吃飯玩呢。除了他們外，我還遇到熱情好客食店老闆、厲害的雜誌社社長、水本太太的親戚朋友們、熱愛唱歌的婆婆等.....他們的每個笑臉都讓我想起也會心微笑。我和交流團的會長押川先生也常有機會接觸，押川先生更邀請過我和他的女兒一起駕車到宮崎市觀光。雖然天氣很熱，車程也很遠，但他都充滿活力地向我們介紹，我對押川先生實在充滿大大的感謝。

交流的集體活動

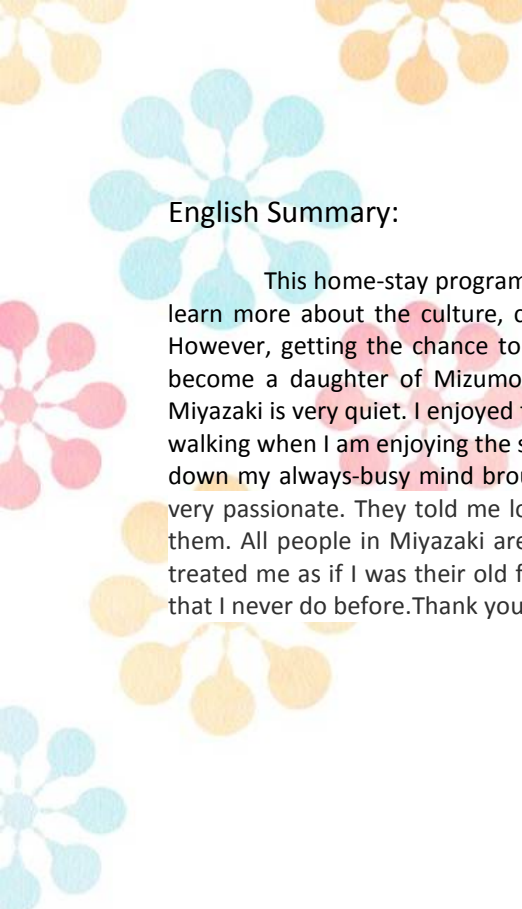
在兩星期中，我偶爾也有機會和住在西都市附近的交流生一起參與集體活動。首先，我對歡迎儀式上表演三味線和夏威夷舞蹈一眾嬉嬉和叔叔留下深深的印象，他們的表演使我對宮崎的陌生感消失。歡迎儀式每個家庭都會準備不同的自家製菜式，使我一到步已經吃到傳統的飯團、漬物和新鮮的水果。當天每個家庭的自我介紹也拉近了交流生和家庭的距離，協助交流生融入到家庭當中。另外，交流生也有機會戴起當地成員準備的日式廚師帽，到了料理教室做日本料理。日本做料理的方法與中國的確有很大的差別，先是對食材精細度和時間的安排上已經很不相同，口味上也有很大的差別。全部女生在老師的指導下處理食材，

用日本的調味料調出一個合中國人和日本人口味的醬汁，一起用白玉粉包起豆沙等工序後，終於做出了日式的甜點、涼拌苦瓜、雜菜湯、豚肉沙拉等。由於交流期間天氣都很炎熱，所以偏酸的口味倒也挺合適也很新鮮。交流生們也集體參觀了當地的 Green Center，學習當地的垃圾分類知識，我們還把不要的玻璃重新造成漂亮的玻璃珠掛飾和其他玻璃製品。此外，我也和其中一位交流生訪問了西都市市長先生，市長先生為人十分親切，友善地和我聊天，在其後的夏祭中遇到我時也主動地打招呼致意歡迎，作為一個小小交流生卻得到如此高度的歡迎實在令我感到很愉快也難忘。



在離別會上，每位交流生都用日語分享十多天下來的心得，我們也能藉此機會向自己的「家人」致上深深的謝意，大家在這次的交流上日語能力真的大大提升。會上交流生更第一次體驗到流水素麩的活動，在炎熱的夏天和眾多小朋友一起吃上清涼的素麩實在令人感到很舒爽。

兩星期的交流活動很快就過去了，發生了的事情多得令我也記不起來。不過我最記得的始終是九州人那濃濃的人情味。這種味道我甚至在日本其他地方也感受不了。我還記得和市議員川切先生道別時那依依不捨的揮手、和合唱團成員分別時的感謝之情、和小朋友們的擁抱道別、和交流組織會長押川先生的握手和擁抱、和水木家分別時的眼淚汪汪……。這次的交流令我真實地接觸到日本這個如此美麗的地方，那一大片漂亮的田地、廣闊的藍天和晚上一片的星空都使我愛上九州這個地方。所以最後，真的很感謝日研讓我參與交流，有機會自我成長，也有機會遇上這麼美麗的人和事。



English Summary:

This home-stay program is a good chance for me to become a member of a Japanese family, study Japanese and learn more about the culture, customs and lifestyle in Japan. I think getting to Japan is as easy as buying air tickets. However, getting the chance to actually meet Japanese people is much more difficult. Therefore, I am glad that I can become a daughter of Mizumoto's family. This experience is one of the most unforgettable experiences in my life. Miyazaki is very quiet. I enjoyed the beautiful tree scenery without being disturbed by any noise. I can even hear someone walking when I am enjoying the scenery there at night. At that moment you will feel frozen in time. It is a trip that calmed down my always-busy mind brought from Hong Kong. Mr and Mr. Mizumoto, my father and mother in Miyazaki, were very passionate. They told me lots of things about Japan and living with them is fun, and also, I had learned a lot from them. All people in Miyazaki are really nice. They invited me to dine together. Although I come from Hong Kong, they treated me as if I was their old friends. When I talking with them, I feel love is around me. In this trip, I did many things that I never do before. Thank you for giving me a opportunity to join this program. Thank you so much.

陳佩映

一直以來，我對日本都非常嚮往，很想去一次真正地認識和感受日本的人、文化、環境等等。終於在今年7月我可以夢想成真，去日本鹿兒島和日本家庭一起生活兩星期。

本來我沒有想過會參加交流團，但和我一起讀日文的朋友告訴我有日本鹿兒島縣からいも Homestay 交流計劃 2012 的時候，我不淡定了。我知道這是一個難得的機會真正住在日本家庭，和他們生活，所以我和幾個朋友都參加了，亦很幸運地被揀選了。

我記得第一天抵達鹿兒島的一個體育中心時，我就已經感覺到日本和香港的不同。中心的地上鋪了地毯，所以我們都要脫鞋，穿上那裡的拖鞋，若果是在香港，當然就不用脫鞋。我想起在中大學日文的其中一課，進入別人家的時候是要脫鞋的。我們在其中一個課室裡等待開幕禮的開始，計劃的負責人跟我們說了一些話，但我其實不太明白，我只是大約猜想到他說鹿兒島是一個比較鄉郊的地方，亦有方言，和東京腔有點不同，我當時覺得其實鄉郊的地方更能體驗到日本人地道的風俗和人情味，相反大城市的人可能早已被西方的冷漠所影響，所以我真的很期待這兩星期的生活。出席開幕禮的還有我今次HOMESTAY的爸爸和妹妹，你們真的帶給了我一輩子都不能忘記的旅程…

我的日本爸爸媽媽弟弟妹妹



我的爸爸叫松田真一，是自己開公司送牛奶的，雖然我從來都看不到爸爸工作，爸爸就好像住家男人，每天都陪著我。爸爸很喜歡吃梅，可以吃得很酸。家裡有釀梅酒，好像是由爸爸的爸爸的時候就已經釀著，我想應該很烈吧！爸爸亦喜歡吃辣，但媽媽和孩子們都不吃，感覺很孤獨呢！不過這兩個星期都有我陪爸爸吃辣，感覺很幸福呢！還有，爸爸真的很有英俊呢！



我的媽媽紀子是一位護士，媽媽有時要返夜班，很辛苦呢。媽媽很年輕很親切，很照顧我。媽媽很喜歡看韓劇，也學過少少韓文。



長男崇太是一個很可愛的小學四年級生，外表很像韓國人，因為眼睛很細長而且又是單眼皮。崇太有時都挺害羞的，一說一起睡覺便會臉紅呢！



長女菜生和媽媽樣子很像，看得出長大一定是個小美女！菜生很外向，很喜歡和別人玩，她常常都粘著我，拖著我的手，抱我，我想這應該是因為家裡只有她這個小女生，媽媽又不是常常陪她，所以很渴望有一個姐姐陪她玩吧。次男そら是一個歲很可愛的小朋友，說話的時候總會「ね、ね。。」そら很喜歡媽媽，常常都會說「ママだいすぎ！」



最後，當然還有家裡的兩隻小狗，「リング」和「レジ」，「リング」是男「レジ」是女，「レジ」最粘人，不怕陌生人，常常都會撲過來吻我們。

我在松田家的十六天

第一天，爸爸和菜生來了體育中心接我回家，我仍然記得見到爸爸的時候，我就覺得爸爸真的很英俊，爸爸笑著和我握手，菜生看到我就說我跟相片中的很不同，讚我很漂亮！很開心呢！到大合照時，她還主動拖著我呢。爸爸的家是2層高的房子，有點西式，地板是日式常見的木板，一進門口便看到上樓上的樓梯，他們不是睡「たたみ」的，是有床的，但大廳裡有一張「たたみ」，還有最新奇是廁所和浴室是分開的！一開始真是有點不習慣。我的日語不是很好，小朋友的日語說得很快，很難聽明白，雖然爸爸會盡力解釋，但我仍然不太明白，我記得當時真的很沮喪，我很怕，怕到差點要哭……但我明白我一定要努力要習慣，幸好我有適整好心情，嘗試由他們的動作表情理解他們的意思，再加上當我聽到不明白的字時我便會查字典，所以問題慢慢變得不大！媽媽到傍晚才回到，當我稱呼媽媽做「お母さん」時，媽媽說這很奇怪，叫「ママ」就好了！其實我都覺得「ママ」比「お母さん」更親切，就好像我真是她的女兒，我真的覺得很溫暖。



之後我和爸爸媽媽弟弟妹妹一起去了霧島的夏祭，這是我第一次參加日本的祭典，真的很熱鬧，很多少年少女都穿了浴衣，路邊擺滿賣串燒、章魚小丸子、啤酒「ASAHI」、冰等等，日本人真的很怕熱，一到夏天就會常常吃冰，我和菜生和そら手拖手一起走，碰巧遇到蒙面超人，原來そら很喜歡他但又害羞不敢自己過去，所以我便和他一起拍照！到最後我還看到一個潑水的比賽，男人們都好似相撲手只著一條布褲，之後會有另一隊男人抬著一頂大橋跑過來，然後他們就會潑水，雖然我不太明白是怎樣的一個比賽，但聽到其他人都很努力地打氣，氣氛真的很熱鬧呢！我可以感受到日本人對祭典的重視，未必所有人都會穿上浴衣，多數只有年輕人和朋友一起會穿，一個家庭的都不會穿，而且日本人很自律，即使熱鬧過後，都不會留下垃圾，這些我都是第一次看到的！回到家後，菜生不斷叫我一起洗澡，一開始我是拒絕的，因為我未試過和別人一起洗澡，就算對方只是10歲的小朋友。但是我看到她眼裡的希冀，我想她是真的很渴望有一位姐姐陪她一起，我問她：「一緒にお風呂に入るは楽しい？」她說：「うん！」所以我答應了。菜生教我如何洗澡，教我先後次序，突然我明白為什麼日本的家庭會喜歡一起洗澡，因為這可以維繫家人的感情，而且感到很溫暖。

第二天，媽媽帶我逛超市，可以看到擺放酒的櫃台很大，五花八門的酒都有，日本人真的無酒不歡！媽媽知我很喜歡吃蝦和刺新，所以買了生海蝦和刺新。媽媽突登買了一些紅胡蘿蔔、洋蔥、薯仔，原來是要煮咖哩！日本人在家裡很喜歡煮一大鍋咖哩，然後一連幾日都會吃咖哩飯。小朋友們很喜歡拉著我玩，他們會不時擁抱我，他們知道我的日語不太好，不懂如何表達自己，所以會用身體語言表達對我的喜愛，我真的很感動！當晚的咖哩飯和生蝦真的很好吃！咖哩飯是偏甜的，很香濃！生蝦亦很鮮味！



第三天，爸爸媽媽今天趁小朋友們不在家帶我出去玩，首先爸爸載了我去垃圾場，日本的垃圾場不是很臭，我們只需把車駛入，便會有員工來收垃圾。這和香港很不同，在香港我從來都不會將垃圾分類，亦不用自己送去堆田區，但是日本人很在意環境，他們會改變自己的生活模式去遷就環境而不是改變自然遷就人類，這點令我很佩服！之後，我們就去了霧島神宮，因為我說過很想去日本的神社參觀，所以便帶了我去，爸爸媽媽對我真的很好。。。

霧島神宮是霧島很有名的神社，所以當我們去到時，還看到香港的旅行團在參觀。爸爸媽媽對香港人很有興趣，一聽到旁邊的人說其他語言就問我是不是香港人！還叫我和他們說話，當中爸爸媽媽想問一些問題時我都會幫忙翻譯，那一刻我突然覺得自己很有用處！儘管我的日語只是懂得一些皮毛，但我可以令兩個不同國家的人說話，拉迎距離。爸爸在神宮裡教我如何洗手，什麼是「おみくじ」，向我介紹日本人對神社的參拜。最後，我們還去了浸溫泉，媽媽教我要先洗澡才可以浸，媽媽還替我擦背，真的很舒服，我亦幫媽媽擦，當時那一種感覺就好像我們是真正的母女，我們可以親密地為對方擦背，感覺真的很溫馨！浸溫泉最重要的不是浸，而是大家一起談天擦背。。。

第四天，爸爸媽媽帶我去了另一個神宮，他們自從知道我很喜歡日本的神社後就不斷帶我去，我總共去了四個神宮呢！



第七天，菜生的同學來了家裡玩，我和他們一起在家裡玩捉迷藏！雖然我已經是一位大人，但我覺得和他們玩很開心，他們很可愛很天真，和他們說話我可以學到很多生字，他們會主動教我生字，他們真的很好！

第八天，我們一家人去了游泳，游泳池離家裡很遠，坐了一小時才到，我們玩了很久才走，晚上我們去了一間壽司店，這是我來日本第一次去壽司店，迴轉帶上的壽司已經預先抹上「わさび」，真的很貼心！這裡的壽司比香港的更但更好吃！



第十三和十四天，爸爸媽媽帶了我們去了長崎的一間主題酒店玩，裡面有日本很著名的一套漫畫的主角的遊戲，我們玩得真的很開心！



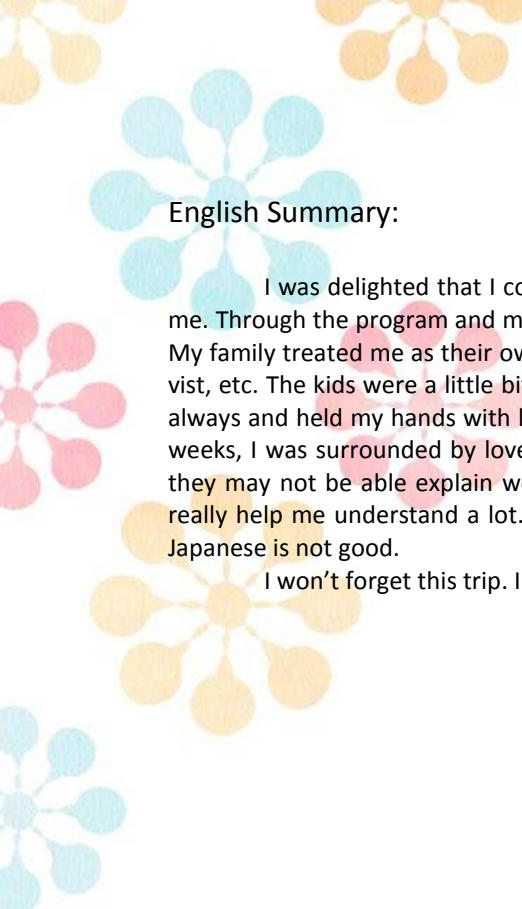
我在日本的工作體驗

雖然爸爸媽媽常常帶我周圍去玩，但我亦都很想在日本工作一下，接觸更多人，所以有兩天，爸爸媽媽分別帶我去了醫院和便利店工作。第五天的時候，媽媽帶我去她的醫院幫忙，這是我第一次參觀日本的病院，媽媽是回復期的護士，即是照顧一些行動不便的公公婆婆，一開始我跟媽媽一起巡房，看到不同的人，有些是護士，一些專餵公公婆婆吃飯，大家都很親切，我不斷的自我介紹，感覺很有趣！之後媽媽帶我到分藥的部門工作，當中有一位老護士懂得英文，她慢慢地向我介紹怎樣分藥，當我跟她說我的主修是化學時她很好奇我是不是會做藥劑師，但我向她解釋在香港讀化學是不能做的。在日本，護士會把一天早上下午晚上需要吃的藥分好一包包，這是為了方便沒記性的老人家能夠準時服藥，真的很貼心呢！之後我幫媽媽派飯，也和公公婆婆們玩拋波的遊戲，做伸展的活動，大家都玩得很開心呢！

第十一天時，爸爸帶我去便利店FAMILY MART做2個小時的店員，因為我的日語未到達和客人說話的水平，所以我只是負責說問候語、打掃和把貨物補充上架，未出去店面時，我要在員工房裡練習「挨拶」，要熟練和快速地大聲說出來然後四十五度彎腰真是有點難！練習了一會兒終於出去店面了，店長教我每次有客人進來要說歡迎光臨，離開要說多謝光顧，但我每次都會說得很慢，真是很對不起呢！之後他帶我抹窗、洗洗手間、將飲品上架，這些我都是第一次做的，感覺很新奇。做完之後，我覺得日本人真的很有禮貌，做事亦很認真，他們不會偷懶，會帶著笑容迎接歡送客人，真是很難得！

旅程的得著

這次HOMESTAY令我更了解日本人的生活，其實他們不是我想像中非常傳統，爸爸媽媽都會用IPHONE，IPAD，會看韓劇，會食西餐，但大家都一定會參加日本傳統的節慶，一家人仍然會一起洗澡，增進感情。我不會忘記爸爸媽媽帶給我的一切，我一定會再回去！



English Summary:

I was delighted that I could join the Karaimo Homestay Program. This trip brought a lot of joy and happiness to me. Through the program and my host family Matsuda San, I understand more about Japanese culture, habit and people. My family treated me as their own child. They cared about me, asked me what I wanted to eat, the places I would like to visit, etc. The kids were a little bit naughty but very helpful. They taught me new Japanese vocabularies. They hugged me always and held my hands with love. Mum and Dad stayed with me and told me what they did on holidays. In these two weeks, I was surrounded by love and care. They tried their best to communicate with me. As they didn't know English, they may not be able to explain words by words, but they used their body language and further explained the sentences really help me understand a lot. I also learnt more Japanese and have the courage to talk with others even though my Japanese is not good.

I won't forget this trip. I really love my family and I hope I will have the chance to visit them again in the future.

姚卓維

Introduction:

In summer 2012, I participated in the Karaimo Exchange programme 2012. 10 students from CUHK including me started our journey to Kagoshima, Japan on 14/7. The following content is a report on my thoughts and experiences in the exchange programme.

14-15/7

On 14/7, our group took a 4 hour flight to Tokyo Haneda Airport and arrived around 8:30pm that day. We stayed at Toyoko Inn, a hotel near the Airport that night and took another flight to Kagoshima the next day morning. Upon our arrival at the Kagoshima Airport, we were welcomed by the committees of the Karaimo Exchange Association. After a half an hour ride, we arrived at the association's local headquarters, where a total of 20 participants and our host family representatives were awaiting eagerly. We were introduced to our host family one by one. After a brief introduction, we head off with our new family to the place where we will call home for the next 2 weeks.

My host family representative is Mrs. Kawano (my Okasan). She is a Care Manager working in an Elderly care facility. She was unable to leave her work pose that day to pick me up so I ride with Ivan, a student from Macau University and his host, Mrs. Kuroda. We stopped by a traditional noodle house for lunch and continued our 1.5 hour journey back to Hioki-Shi. I spend an afternoon with the Kuroda family before Mrs. Kawano came to pick me up. Before I left for Kawano's house, we had a little chat about the coming schedule and activities. I learnt that there were a three participates in the area and we will be spending our coming days together. There was me, my newly met friend Ivan from Macau, and his senior classmate Louis. Mrs. Kuroda is a senator of the region and she prepared several visits to schools and kindergartens for us.

That day around 6pm, Okasan came to pick me up. We first went to a local supermarket to shop for food. Okasan said that we were going to have a barbecue party that night. Okasan is a very experienced shopper, it only took her around 15 minutes to gather all the food and drinks need for that party. After that she brought me back home. The place is located one JR station west of Ijuin, in Higashi-Ichiki. It was a nice gray colored house with a small garden, situated right in front of a flowing river. There are a total of 6 family members in the Kawano family. Kyoko is my Okasan, and Masatoshi is Otosan. Their elder daughter is Yui, and 3 sons: Seya the first son, Shinya, and Tatsuya the youngest son. They let me stay in a room on the 2nd floor on the river side, where the mountains and the railroad, as well as other hoses can be seen from the window. It was a very nice room with a bed and a tall bookshelf, and also a desk as my working space. That night we had a barbecue welcome party where all 3 host families came together and celebrate the beginning of a wonderful journey.

16/7

The next day Okasan and Otosan took me to a local swimming gala where Tatsuya and his schoolmates also participated. Japan is a nation on surrounded by the seas and Japanese take swimming very seriously. Most Japanese start swimming lessons in primary school and swimming pool is a basic facility in every school, which is a dream in Hong Kong where most schools are unable to afford and maintain a swimming pool. I guess this is why Japanese are very good at swimming.

That day after the swimming gala, I went home with Mr. and Mrs. Kawano and have lunch with them. I learnt a little bit more about the family members of the Kawano family. Yui the eldest daughter is studying in a nursing school and want to become an elderly care taker like her mother. The two big brothers were studying in high school while their little

brother is still in primary school. Mr. Kawano is a teacher who works in a school in one of the islands near Kagoshima. The school is quite far away from the house so he has to stay in an apartment near his work place and can only come home from time to time. That day afternoon he has to go back to the school and Mrs. Kawano drove him to the city ferry pier. I decided to go with them to Kagoshima and have a look at the city.

The ride to the city was about 40 minutes. The weather was great that day and the Sakura Jima can be seen clearly that day. It is a beautiful Volcano in the middle of the bay East of Kagoshima city. It erupts almost every day but is not really dangerous. After some photo-taking, Mr. Kawano went on the ferry. Before we go home, Okasan took me to a little Sight-seeing walk in the city. She showed me some of the famous site and streets. There was a Matsuri that night near the Terukuni Jinja (a Japanese temple in Kagoshima City) and there were a lot of stores setting up. There were Japaese girls wearing Yukata walking down the streets, and children asking their parents to buy them Okashi (snacks and sweets) and toys. Though I have been to Japan several times before, I have never been to a Matsuri. It looks just like in the anime but much more vibrant with all those bustling people and stores. It is certainly one of the most interesting events during my stay in Kagoshima.

17/7

The next day Ivan, Louis and I visited Higashi-Ichiki JHS (a secondary school). We participated in some of the classes with their year1 students, such as Japanese and Mathematics. Later, we had lunch together with the students and class teachers. They had curry with bread and soup macaroni that day they also had a carton of juice and another carton of milk as part of their lunch. One of the interesting features about Japan's students is that they always include milk in their diet. It is a policy implemented from many years to ensure the younger generation gets enough nutrition to grow strong and healthy.

Later in the afternoon, we did some classroom cleaning together with the students. Schools in Japan require students to clean the classrooms themselves as a form of learning experience. It also helps students to develop a sense of responsibility and a sense of belonging. It is also a practice rarely seen in Hong Kong. Before we leave for home, we had a chance to chat with the principal. We talked about the difference in the schools in Japan and those in Hong Kong and Macau. Schools in Japan are clearly bigger and with better facilities. Schools in Hong Kong such as mine don't have a swimming pool and the school perimeter is around half of the Higashi-Ichiki JHS. We also talked about the school motto and its meanings.

The exchange came to an end after we took a photo with some of the students and head home. It is a meaningful exchange which gave me a chance to experience secondary school life in Japan. I certainly learnt a lot about their school live and teaching methods.

After the school visit, Louis's Okasan took us to the beach for some rest. It is a beautiful sandy beach with a wide sea view all the way to the horizon. We sat there and had a can of soft drinks while enjoying the beautiful weather of Kagoshima for a while and left for home before it starts raining.

18/7

On the 18/7 the three of us went to Tsurumaru Primary school (also locate in Higashi-Ichiki) and met with some of the P.5 and P.6 students there. We briefly introduced Hong Kong and Macau to them and started a Q&A section so that the children can ask things about Hong Kong and Macau. The children asked some intriguing questions and some questions are quite hard to answer due to our poor Japanese, but we managed to answer many of their questions and the children seemed happy to see visitors from another country.

After that we had lunch in a Japanese restaurant. I ordered a bowl of Ramen. It was, though expensive, a very good Ramen. We went to Family Mart (a convenience store nearby) for some drinks and snacks then headed back to Kawano's place.

19/7

There were no scheduled activities on 19/7 so I decided to visit Ijuin for some sight-seeing, and then cook dinner for the Kawano family. I left for Ijuin just before noon and arrived at Ijuin after taking the JR train for 5 minutes. I walked around the station and visited the Tokushige Jinja. It is a delicately designed Japanese temple with elegant decorations. I also tried to pray to the Kami of the Jinja with the method I learnt from Okasan.

After the sight-seeing I went to a local restaurant called Mukae. I ordered a daily set lunch with a hamburger steak as main dish and several side dishes. One of the side dishes is a kind of sashimi which I had never tried before. I tried 2 pieces of them before I found out that it is actually chicken sashimi. Hong Kong people never eat chicken raw, not even in Japanese restaurant so it is the first time I've ever tried raw chicken. It actually tasted fine but was a bit hard to chew. I still prefer fish sashimi other than raw chicken. Over all the lunch set was of good value and a great experience (of trying raw chicken).

After lunch, I went to a nearby supermarket to buy food for dinner. It took me around 45 minutes to get all the food. I guess I am not match to Okasan when it comes to shopping. Somehow the Okasans in Japan are all very skilled in shopping and they are able to gather goods in staggering speed and accuracy. After the shopping, I went home by JR.

While I was waiting for the train at the station, I noticed a habit of the station staffs that is not very common in Hong Kong or any other place in the world. Whenever there is a train stopping at the station, a staff will be standing by near that platform, he will bow to the driver and passengers when the train leaves. Such a dedicated spirit to work is rarely seen in Hong Kong.

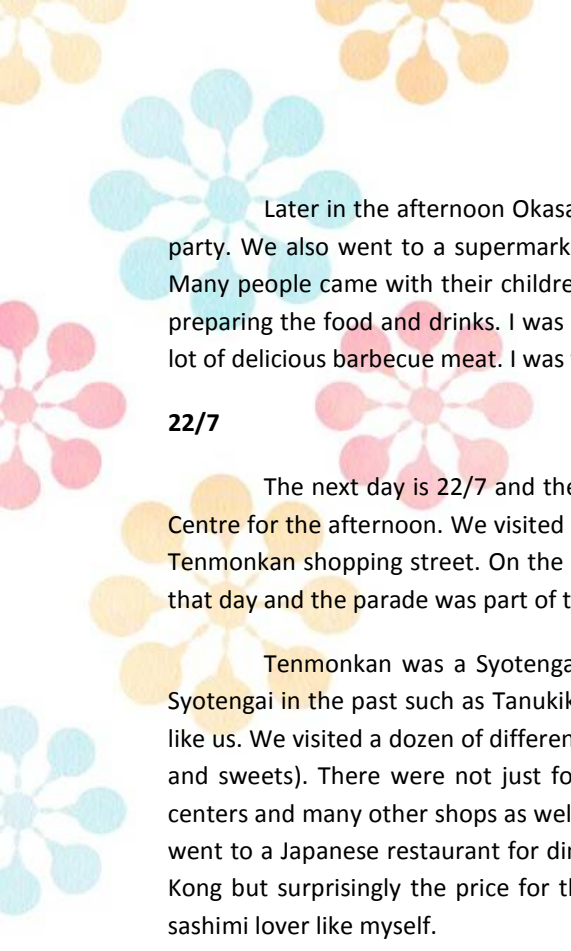
I quickly took a shower and started preparing from 4pm. I have to admit that I am not a very skilled cook, but luckily I was able to prepare that night's dinner successfully. I cooked a vegetable and pork soup, fried mushrooms with bean sprouts, fried pork with onions, and baked potatoes. The family seemed to like my cooking and I am very happy to be able to cook for them.

20/7

On 20/7 Ivan, Louis and I went to a Soba restaurant to learn how to make handmade soba. The process of making handmade soba is not very complicated but it takes some skills and a lot of experience to make high quality handmade soba. First you have to mix buckwheat flour, taro mash and one egg. Then a series of pressing and mixing action is performed. After that the dough is pressed into a thin sheet and then fold into a roll. Finally the noodle is cut out by hand. This is the most difficult part. To make thin noodles that won't break into pieces takes a lot of practice. We then ate some of the noodles we made. It tasted good but our cutting skill is not good enough so the noodles look more like pasta. Anyway it is a fun experience.

21/7

The next day Okasan took me to the beach. We meet Ivan, Louis, and his "brother". Tatsutya also came along. We played beach soccer and strolled in the waves. A summer day on a beach in Kagoshima was very enjoyable. Okasan went home and prepared us some food for lunch. She came back to the beach with a huge round lunch box full of all kinds of food. We had lunch on a grassy field next to the beach. The beach was a very beautiful place and I took many beautiful photos that day. We all had a lot of fun that day.



Later in the afternoon Okasan took me to the community building in Higashi-Ichiki to help preparing a barbecue party. We also went to a supermarket in Ijuin to buy food and drinks for the party. The party started at around 6 pm. Many people came with their children. The children and elders set along two sets of long tables while the women were preparing the food and drinks. I was honored to be seated with the men around the fire. We drank much beer and ate a lot of delicious barbecue meat. I was very happy to be able to make friends with some local people and join their party.

22/7

The next day is 22/7 and there was no pre-scheduled activity. Ivan, Louis and I decided to go to Kagoshima City Centre for the afternoon. We visited a shopping mall next to the Kagoshima central station. Later we went to the famous Tenmonkan shopping street. On the way to Tenmonkan, we saw a parade on the street. Turned out there was a Matsuri that day and the parade was part of the celebration event.

Tenmonkan was a Syotengai, which is a kind of shopping place very common in Japan. I have been to other Syotengai in the past such as Tanukikoji in Hokkaido. Tenmonkan was bustling with people, of which many were tourists like us. We visited a dozen of different shops and bought many omiyage as souvenirs. Many of which were Okashi (snacks and sweets). There were not just food store and boutique in Tenmonkan, but also many restaurants, Pachinko game centers and many other shops as well. It is one of the best places for shopping in Kagoshima. After hours of shopping, we went to a Japanese restaurant for dinner. Most Japanese restaurant in Japan charge more expensive than those in Hong Kong but surprisingly the price for the sashimi was much lower than in Hong Kong, which was a great discovery for a sashimi lover like myself.

After dinner, we took JR back home, with many bags of Omiyage. It was a enjoyable day in the city.

23/7

There was also no pre-scheduled activities this day. I decided to stay home to take some rest since I was a bit ill after yesterday's tiring journey. I slept for most of the day and in the afternoon, I played Wii with Tatsuya. He is a very good Wii player and I just couldn't win a single game even with over 15 years of gaming experience. I guess I was not in my best shape that day. One thing Japanese are very good in is video gaming. They not just play it well, but can also design some of the best games and gaming consoles, such as the Play-station series, and Ninetendo's Wii. Ivan told me that he used most of his money to buy Japan made games on this trip.

24/7

Today we went to the Hioki city office to meet with some of the officials. We were warmly welcomed by the head of Education department. We talked about some of the education issues in Hong Kong and Macau and exchanged some ideas about schools and education. After that we were introduced to the Mayor of Hioki. We each talked about our home city and later about our impression to Japan and Kagoshima. We were honored to be able to meet these officials and have a chat with them.

In the afternoon, we took the ferry from Kagoshima to Sakura Jima for a bicycle ride. We were able to see the Sakurajima volcano up close. We also went to a foot hot spring open to all visitors there. The scenery there was beautiful and is a great place to spend a weekend.

25-26/7

For the following 2 days we went to the Asahigaoka Kindergarten. It was already summer holiday so there were only around 50 children staying in the kindergarten during day time. Many parents still have to work in summer so they

will send their children to the Kindergarten where there will be teachers taking care of them. The children were very excited to see us, and they were constantly asking us to play with them.

The schedule of the kindergarten was as following. The children will gather at the kindergarten before 9am, and then they will play outside the play ground for a while. After that they will have some snacks before going back to the playground for more activities. They will have lunch at noon with an indoor gaming section following. They will have another snack time after that and finally another outdoor playtime until they are picked up by their parents.

Children in Kagoshima were a bit different than children in Hong Kong. Hong Kong children hate to go outside where there is no air-conditioning and they also don't like to play with strangers. However, the children in Kagoshima are very active and playful. They like to play under the sun and are not afraid of strangers. In fact some of the children were constantly asking us to play with them. One of their favorite activities was to climb a triangle rack that was used to be the frame of a swing. They would say the word "dako" repeatedly, which means hug and carry them. I later found myself terribly busy in carrying children up to hold the rack and later carrying them back down. I also learnt a new word "Haba", which means a leaf, when a little girl asked me to hold her up to the tree to pick a big one. I have never worked in a Kindergarten before and it was very interesting.

27/7

Today we went to a nursery in Myoenji. There were children from different age, starting from new-born baby to primary school children. The principal was kind enough to show us around the facility. It is very well equipped with many new buildings. Later I was invited to help out in a 2 to 3 year-old class. They went to play in a small pool and the children seemed to be very happy to be able to play in the pool. After that they had lunch and then it was time for them to take a nap. It was not easy to make the children finish their meal and even harder to put them to sleep. But still they were very cute. Sometimes you have to be very patient with small children and I am very glad to be able to help taking care of them.

After lunch, I was asked to help in cleaning the place and then we played soccer with one of the older kid. Later in the afternoon we took pictures with the children and left for home. It was also a very interesting day.


28/7

Today we went to a Somen (plain noodles) party hosted by some of the locals. We went there early in the morning to help out making tableware and setting up the place. Somen party is one of the most unique feasts invented by the Japanese. A channel of water made by bamboo is set up so that noodles can flow down the channel with the water. People then have to pick up the noodles from the water and dip it into a specially made sauce. It is a feast usually held in the hottest months in Japan. All the tableware such as chopsticks and cups were made of bamboo. It was not an easy job to cut out them from a bamboo stick. I have to say I was sweating all the time while making the tableware. The feast was ready at around noon and people all came together to enjoy the food. I have seen similar party in Japanese anime but this was the first time I could experience it in person. It was the kind of unique experience you cannot possibly have being a tourist. I was very glad to be able to join in such a unique event with the locals.

That night we had a barbecue party at Louis' place. It was a farewell party since we are leaving our host families the next day. We chatted a lot and ate much good food that night. I was very grateful to have these generous host families taking care of us for two weeks.


29/7

It was the last day of me staying in Kawano's place. I had to wake up early to make sure I was ready to travel back to Hong Kong. I have to take the 9:29am JR back to Kagoshima, where I would take a bus to the airport. Okasan and

The top-left corner of the page is decorated with several stylized floral motifs. These include a yellow flower with five petals, a light blue flower with six petals, a pink flower with five petals, and another yellow flower with five petals. The flowers are arranged in a cluster, with some overlapping.

Tatsuya accompanied me to the Higashi-Ichiki JR station. After 2 weeks living together, they are like family to me, and I knew I will miss them a lot. We waved at each other as the train speeding up to leave for Kagoshima. I travelled for a whole day until I was back in home in Hong Kong.

I was very glad to be able to participate in the Karaimo Exchange program and to be able to spend two weeks with such a great host family. It is a wonderful experience not many can have and for that I am very grateful.



English Summary:

One of the most notable characteristics of the Japanese is that they are very polite in every place in any circumstances. Shop keepers and waiters are always very polite no matter you are in a big department store or a small shop. The politeness of the Japanese doesn't not limit in the service provider. Even average people you meet can be very polite. During the trip I meet many local Japanese and they are all very polite and friendly. This is one of the reasons I like to visit Japan.

Another remark about Japanese is that they are always very aware of staying healthy. Their diet, especially for the children contains all kinds of nutrition and they also like to exercise frequently. I participated in the radio morning exercise a few times. It is a set of exercise designed for young children and elders. Teenagers also exercise frequently. Seya was a soccer player and Sinya was a tennis player. They both go to practice a lot.

The third point I want to share about Japanese is that they have high environmental awareness. The Japanese are always caring a lot for the environment. They understand the importance of sustainable development and implement a green life style in their everyday lives. They are very efficient in recycling waste. I saw most of the rubbish bins in Kagoshima were recycle bins. My host family also recycles most of their waste. They sort out the plastics from the flammable waste and the paper. The result is that an amazingly small amount of solid waste is created. Also, Japanese are very keen on saving energy. Many households use solar energy for heating and electricity. They also seldom use air-conditioning which saves a lot of energy. I really appreciate their effort in protecting the environment. If Hong Kong people can be half as environmental friendly as the Japanese are, we will have much less environmental problems. This is something we should really learn from the Japanese.

梁雨衡

七月十四日是我期待已久的一天，期待程度之高甚至令已經在前兩天preprecamp 幾乎耗盡體力精力的我可以準時一早起身前往機場。同學們也很準時地在機場出現，整個出境程序相當順利，前往東京的航班準時出發。本以為我登機後會在飛機上呼呼大睡，但可能由於太過興奮，我沒能睡著，所以就開始研究飛機上的多媒體設備，看著電影等待著飛機餐的到來。我不知道這是不是我的怪癖，我對飛機餐總是有超高的期待值，以至於迎來的略顯普通的飛機餐令我稍稍有點失望，不過我還是把它全部吃完了（我總是會把飛機餐吃完）。

四個小時的機程很快就結束了，到達東京已經是晚上了，氣溫比我想像中要更清涼，在步出機場的一剎那我深深地吸了一口氣，“這就是我期待已久的日本空氣啊！”問了服務台之後我們坐上了前往酒店的接駁巴士，值得一提的是巴士司機很盡責地幫我們把行李搬上車又搬下車。酒店的房間非常小，以至於我們不能同時把兩個旅行箱同時打開，還好環境不錯還有Wi-Fi，我們在整頓後便抓緊時間出去享受這僅餘的夜晚，要知道對於我這個不能延長逗留的學生來說這可是我這次旅途唯一能踏足東京的機會。

我們首先來到了酒店對面的七仔，發現日本的七仔貼滿了偶像組合関ジャニ∞即將上映的電影《エイトレンジャー（關八戰隊）》的海報，一向喜歡看錦戶亮的我當然把握機會拍了幾張照片。進去後發現日本和香港的七仔還是很不同的，首先是有很多香港沒有的食物，例如飯團，壽司，炒麵麵包（這是令我略感驚訝的品種，畢竟把一樣澱粉當作另一樣澱粉的餡料還是比較奇特的想法）等，還有就是報刊欄有賣色情報刊。不得不說七仔的飯團真的很好吃，而且晚上的特價才100 日圓。走出七仔後我們繼續尋找吃東西的地方，可能這個酒店坐落的地方還是比較郊區，時間也很晚了，所以大多數店舖都打烊了，仍在營業的幾乎都是便利店，而且我們發現日本的便利店比香港的還密集，而且種類也比較多。最後我們去了一見餐店，我們點了味增拉麵，清湯拉麵和餃子，餃子和清湯拉麵還不錯，但味增拉麵就非常鹹。吃完東西後我們去了隔壁的一間書店，但進門後發現擺在門口的全部都是色情寫真的DVD，就又離開了。由於第二天要很早起床，我們很快又回到酒店梳洗睡覺了。

本來我就是睡不慣生步床的人，加上興奮又緊張的心情，我一夜都沒睡好，但我還是相當精神地起床去吃酒店的自助早餐。早餐是炒飯，味增湯和一些配菜，還是比較好吃的，尤其是當中的半熟蛋很好吃，但味增湯還是很鹹。我還喝了一整杯我平時都不會喝的咖啡，因為今天就要第一次見我的host family，希望不要因為之前幾天沒睡好而影響精神狀態。在登上東京飛往鹿兒島的飛機後，懷著愈加緊張又興奮的心情的我，還是不敵疲憊睡著了@@。接機的齊藤先生舉著一個比我們想像中大很多的牌子帶著一臉憨厚的笑容一早就站在了機場外等待我們，隨後他和同事把我們載到了一間學校（大概是吧？）會見我們的host family。進去教室發現所有的host 和其他學校的同學已經在等待我們了，所有的host family 給我的第一印象就是非常友善淳樸，我們交錢領牌坐好後，一些坐在學生旁邊的host family 就開始和學生聊天。見面會的內容大概都是各個代表發言，至今我還是非常驚嘆副團長的日文水平，聽說是考過N2 的，果然名不虛傳！然後是齊藤先生的發言，我唯一記得的是他說鹿兒島居民的日文是有口音的，所以我們會發現他們說的日文和我們平時學的不太一樣，這個我在之後的時間也有深刻的體會。然後就是各個host family 和學生的握手儀式，有趣的是我的爸爸跟我說的第一句話是廣東話的“你好”。

見面會結束後爸爸便把我載會了伊佐市的家，這程車也是我們第一次相處的時間，爸爸很“努力”地問我問題和我聊天，雖然我並不能很有效地表達自己的想法，但爸爸還是相當友善地不斷找話題和我聊。經過五十分鐘的車程我們回到了家，這個家庭的住房，事務所和工作間都在同一個地方，外表看比較大但相當簡陋，不過這也在我的預想之內。進屋後我發現日本房屋的結構和中國的很不一樣，最大的分別是廁所，浴室和洗漱台是分開的；而屋內的大多數門都是障子門，唯獨我的房間是普通的門還有床架和床褥，這充分表現了這個host family 對寄宿學生的照顧。房間的牆壁上還張貼了很多之前的寄宿學生的照片和資料，我發現以前來的學生很多都是日本語相關的專業，並且一次就有兩個。起居室同時也是吃飯的地方，這裡並沒有椅子，但他們卻在我的位置擺放了一張靠背最高的無腳椅子，讓我受寵若驚。最吸引我注意的是客廳裡的兩個透明盒子，遠看就像兩盒泥土，近看才發現一盒裝著一隻大甲蟲，另一盒裝的是未孵化的幼蟲。

整理行裝後，馬上就是午飯時間，也是我第一次和媽媽見面。午飯非常豐盛，其中我最喜歡吃炸雞和海帶，而且我發現日本米很好吃，比中國米更粘稠一點，口感很好。媽媽和爸爸一樣很友善而且也會英文，不過媽媽的表達能力比爸爸還好，在說話的時候會有比較明顯的斷句，發音也比較清晰。吃完午飯後我便跟隨他們出去，在出門時我發現他們都不鎖門，可想而知治安很好。上車後得知他們要帶我去參拜位於宮崎的神社，宮崎和伊佐大概有一個多小時的車程。來到神社，他們教我燒香燒蠟燭，還有求籤，我還求了一支好籤，他們便教我把籤留著，如果抽到不是好籤，他們就會把籤綁在神社外的護欄上。整個過程他們都有幫我出錢。參拜的時間沒有很長，我們就回去了。在回程途中我們去了一些地方，首先去了一間很大的電器店，媽媽給我介紹日本的電飯煲是最好的，很多中國遊客都會買回去，但是我想也太大一個了，所以也就沒買。然後我們去了一間大型超市買晚

飯的東西，他們得知我喜歡吃壽司刺身後就買了幾盒壽司和刺身，他們告訴我我是第一個喜歡吃壽司的寄宿學生，這讓我也感到很神奇。回家後他們讓我泡風呂，風呂其實就是一缸熱水放一塊藥用風呂劑，雖然天氣比較熱，但還是挺舒服的。泡完我就把水放走了，後來他們告訴我不需要把水放走，他們會繼續用那缸水。晚飯的主角是壽司和刺身，不得不說日本的壽司即使是超市買的壽司都很好吃，刺身也是，就算是一種不知名的魚都比在香港吃的三文魚要鮮美很多。我們一邊吃飯一邊看電視，我發現日本的綜藝節目都很好看，儘管我並不能完全明白他們的對話，連廣告都特別有意思。為了養精蓄銳迎接明天的工作，大概11點不到我便去睡覺了。

七月十六號是我的第一個工作日。爸爸給了我一套藍色的工人服，還說要送給我當禮物拿回家。然後見到了我工作的伙伴：爸爸的二兒子守平和一個帶著很厚眼鏡的伯伯春日先生。守平和春日先生都很友善，會主動跟我聊天，尤其是春日先生，他喝醉酒的時候總是會呆呆地對著我笑。第一件工作是去完成一個淨水器的收尾工作，其實就是拆掉一些固定用的木板和把地方打掃乾淨，他們工作非常細心，完工後都要多角度舉牌子照照片。然後第二件工作就是去修一個公廁，日本連公廁都非常乾淨，所以修起來完全不會有惡心的感覺，不過修公廁技術含量很高，空間很小，我並不能幫得到什麼，都只能在旁邊傳遞一下工具。中午吃飯的時候我和守平聊天，他說這裡附近有個喝酒的地方，裡面有很多中國來的陪酒小姐，長得很漂亮，就算她們不太會日文，一個小時賺的錢都是日本小姐的四五倍，他還說如果不是他老婆差不多要生了，他會帶我去見識一下。

七月十七號是我工作的第二天，我發現這裡有很多我沒有見過的昆蟲，尤其是蜘蛛，各種大小無處不在，還會爬進家裡，但本地的人都完全不在意，就算蟲子在家裡也不會刻意去打死，最多也是趕走。今天我看到了守平的大女兒莉子，在上幼稚園的年級，她還是比較怕陌生人，不會和我說話，但會請我吃糖果。回家的途中爸爸還帶我去看了水田，原來爸爸不只有個事務所，還有很多水田。

七月十八號，今天一早就有個鄰居來求助，原來是她們家有個屋外的架子被風吹壞了，爸爸二話不說就帶上工具去修理了。今天的工作是幫爸爸自己家修一個又像屋子又像亭子的建築物，就是說像屋子又沒有門沒有設備，像亭子又比較密封。這是我第一次爬到一個屋頂上面工作，搬木板釘釘子，什麼都是自己做，一天下來非常累也曬黑了很多，甚至曬傷了臉和耳朵，不過看著一個屋子由只有木製框架變成了一間有功能的屋子還是蠻有成就感的。日本人不能穿鞋子進屋的觀念還是挺牢固的，甚至是一間剛完工的屋子，我已經不能穿鞋進去了。晚上有很多親戚朋友來到了這個小屋子吃烤肉喝燒酒，他們聊天喝酒非常開心。

七月十九號是我體驗這裡生活的最後一天，早上我們一起送了莉子上學，然後我們一家三口和春日先生一家三口去了鹿兒島市中心逛街，我買了一些手信。之後由於我家裡的一些突發事情我需要取消餘下的行程回家。雖然旅途很多，但這次日本之行讓我看到了不一樣的日本，一個一般遊客不可能體驗到的日本，這裡民風淳樸，生活忙碌而充實。同時通過這次的交流計劃也讓我發現自己的動手能力還是不錯的！



English Summary:

Taking part in this exchange program, I saw a totally different part of Japan, which cannot be seen by a tourist. It was not about shopping and fashion, but was about experiences. In Kagoshima, I was treated as a member of the family. Not only my family members but also all the people I met there were very nice and unsophisticated. They always talked with me forwardly, and waited patiently if I could not express myself effectively. Daily life there was busy but substantial. As they treated me as real member of their family, they always tried to let me work hard, so that I could experience the real life of Kagoshima.

陳天朗

很慶幸自己今年有報名參加 Karaimo Homestay 交流計劃，因為它給我帶來精彩、嶄新的經歷以及難忘回憶，有可能一輩子只此一次。參與 Karaimo Homestay 交流，並非單單到日本旅遊、學習日本語那麼簡單，而是要融入一個日本人家家庭，成為他們的一份子；要入鄉隨俗，跟隨 Host Family 的生活方式和習慣生活兩週，從而了解當地人的生活文化。

我的 host family 是一對年約四、五十歲，姓山田的夫婦，家住鹿兒島縣始良郡湧水町郊區一間毗鄰檜木樹林的木屋；兩人以便利店、藥房及書店兼職維生。由於 host



dad 剛在我到來的一星期前辭去其中一份工作，所以相對上比較多時間與我在一起。



雖然他外表冷酷，有時候會有些脾氣，但其實為人很友善，而且對我很好，感覺跟我的爸爸有點像！記得我在出發的前一天就收到他以英文寫的歡迎電郵，問我有甚麼想試想做，有沒有甚麼食物不吃或敏感的，十分細心；他在歡迎會上一見到我便把我認出來，更微笑招手示意我坐到他旁邊，那一刻真的很窩心。

很感激 Host dad 在兩星期間為我安排了各式各樣豐富的活動，每天在家中吃過早飯後，他會載我到他不同朋友家，一方面讓我認識更多不同的日本家庭，並作出交流；另一方面讓我可以短短時間之內，嘗試到在不同的田野做不同工作的滋味。



我試過收割南瓜：南瓜井然有序地排列在田野上，可是其負責吸收陽光進行光合作用的籐葉卻在田野上佈成了天羅地網，因此必須小心翼翼地南瓜田上走動，不可以踏在南瓜的籐葉上，以免影響它們的生長。而且，身上帶有橙黃色斑紋的南瓜縱使體積夠大但還是暫時不適宜收割，因為味道還不是最好的。烈日當空之下，只短短兩、三小時的工作已令我感到疲憊，但眼看小貨車上放滿了大大小小的南瓜便很有成功感，而且這的確是很好的一次體驗。



我又試過在稻田除草，把田中的稻草「連根拔起」。聽起來好像蠻簡單的，但其實田野中的稻草和稻米長得超像的，要仔細看才能看到稻米上有一顆小小的白點，那就是生長中的米粒！加上稻草的根部比稻米肥大而強壯得多，所以要拔起它們也是頗吃力的一回事。燦爛的陽光令稻田中的水熱得有點燙，赤足踏在濕漉漉、黏黏滑滑的泥土上感覺很新鮮很特別；每踏一步都有大大小小的青蛙、蝌蚪、草蜢等小動物跟我一起前進，田野中生機處處；微風吹到臉上，氣溫雖高，但仍感覺自在、舒服。



除此之外，我還到過有機菜田幫忙蕃茄、青瓜的培植工作，以「打8字」的方式用尼龍繩輕輕地將一棵棵幼嫩的蕃茄苗、青瓜苗繫到竹棚上，幫助它們吸取陽光茁壯生長，又手握鐮刀去除蕃薯田上的雜草；有一次更是與 host dad 合二人之力，抵受著日曬雨淋在田野中進行修葺：我負責用剪草機把雜草除去，host dad 則用泥耙翻鬆泥土。大雨過後我們索性把上衣脫去，站在路旁喝冰水休息；不久後太陽再次出來，我們又回到崗位工作去了。

記得 host dad 跟我說，除非天氣真的太壞，否則農民一般每天都會下田，即使星期六、日也不例外：早上六時起床，不論陰晴在田野工作八至十小時，也就是所謂的「日出而作，日入而息」，每天如是。Host dad 安排我每次下田工作

最多也只是三小時左右，而且每次到不同的田野工作也帶著一份好奇心、一份新鮮感，淺嘗當農民的滋味。像我這樣試試這個、試試那個，又拍拍照片，下田當然充滿樂趣；但我同時亦想像得到當農民的辛勞：我知道當要我每天風雨不改，一個人重覆地在田野中勞動八個小時，那情況和感受便會截然不同。我甚至見過

一名八十多歲的老婆婆一個人打理著一大片稻田，那時候我心中由衷地對務農者產生了一種敬佩；當我知悉一粒米從播種到收成需要五個月時間的時候，我更深深體會到何謂「粒粒皆辛苦」，決心珍惜食物。



之前提及過，我在 host dad 的安排下，到過他幾個朋友的家，體驗他們的工作之餘與他們作出交流。其中我更在兩個家庭住過了一兩天，令我這次的行程更添色彩。

我第一位認識的朋友上水流先生是湧水町頗有名的農夫，以養殖藍莓及飼養黑豚為主。他為人十分友善親切，有好幾回參加交流活動作 host family 的經驗，而且很喜歡跟我們交流生談話。上水流先生說，雖有點語言不通，但配合身體語言等去估大家想表達甚麼是很有趣的一回事，而我也非常認同他的講法。我曾在他的農場幫忙為果醫瓶貼上標籤，又跟他一起收集過柴枝。



後來讀賣新聞的記者來採訪他，他更邀請我和 host family 來幫忙準備食物，與記者一邊野餐一邊進行訪問。我們吃了以西瓜作盛器的清甜素麵，又分別有藍莓醬及黑豚麵豉三文治，還有鮮榨藍莓豆乳，美味極了！野餐過後，我們更有機會一嘗自己製作藍莓果醬的滋味，並加到乳酪上品嚐，記者更把過程一一拍下來。炎炎夏日，最後以刨冰機自製了藍莓味刨冰，為訪問畫上了完滿的句號。

第二位朋友李美小姐是中國吉林人，三年前被公司調派到鹿兒島工作，然後發現自己愛上了鹿兒島這個地方，現在在當地負責籌辦交流活動和教授日本人普通話。聽李美小姐說，原來中國東北地區的小學會教授日本語作為學生的第二語言，



而不是英語。只有成績或家境較好的小孩子才有機會入讀英語班，所以她直到大學時期才有第一次機會學習英語。初次認識李美小姐那晚，她來我們家作客吃晚飯。host dad，李美小姐和我三人以日語、英語和普通話三語混合使用來溝通，還大談了中國簡體、繁體文字與日本漢字之間有趣的共通點與不同。

後來，李美小姐帶我去參加為當地小朋友舉辦的社區聯誼活動。小朋友的父親們預先買了二十多條鱒魚放到河道裡去，前後用魚網圍住，然後



叫我跟小朋友們一起徒手到河裡去捉魚！鱒魚的表皮滑溜溜的，而且在水中動作很靈活。對我來說，要徒手捉到它們真的很困難，反而小朋友們表現得十分厲害！雖然最後我只能從別人拿起一尾來拍照，但那過程有趣極了，我感到自己好像回到小時候那樣，一臉童真。捉完魚之後，我們便移步到附近的公民館（社區中心），幫母親們準備料理的準備，父親們就負責在室外燒魚。

後來我跟小朋友們到遊樂場玩耍，那裡有個滑行吊索的玩意，就是抓緊繩索從高的一方滑到低的另一方。因為小朋友們的高度和力氣不足以自己爬上去，我就抱起小朋友們一個接著一個抓緊繩子滑下去。他們雖貪玩，但都很乖很守秩序，是很討人喜愛的一群小孩！後來我真的累了（因為抱小孩抱了幾十遍），便回到公民館跟父親們喝喝酒，聊聊天，談談我到鹿兒島的感受，又跟他們介紹一下香港，感覺自己蠻像個旅遊大使的。聊著聊著就到吃飯時間，由小朋友負責拿菜和準備餐具，我感覺日本的小朋友比香港的成熟、自立，而且守紀律。吃過晚飯後我便要離開了，我跟小朋友們道別，他們都依依不捨的樣子，問我為什麼不在那裡留宿一晚，然後又跟我擊掌、擁抱，有一個小女孩更吻了我的手背一下，令我十分感動。雖然我跟他們在語言上溝通有困難，



但他們仍非常樂意跟我玩，又不會怕跟我說話，讓我真切感受到小朋友們的熱情。

另外，我又認識了竹野先生及他的家庭。竹野先生是個種植秋葵和南瓜的農夫，而我



我來說，要徒手捉到它們真的很困難，反而小朋友們表現得十分厲害！雖然最後我只能從別人拿起一尾來拍照，但那過程有趣極了，我感到自己好像回到小時候那樣，一臉童真。捉完魚之後，我們便移步到附近的





就是在他的南瓜田體驗了收割南瓜；我還在竹野先生家中跟竹野太太和女兒一起分工合作，將收割回來的秋葵按重量放入包裝袋內，然後把包裝好的拿去本地菜店販賣。



最後我由於 host dad 晚上要通宵值班，我分別到了兩個不同的日本家庭暫住了一兩天。

第一個是我 host dad 的農業導師山田先生的家，與太太育有兩子一女。山田夫婦都很年輕，三十來歲左右，而且兒女也尚年幼。每天夫婦二人都會駕車去下田，小朋友在車上玩耍。就是山田夫婦教我如何在稻田中除草及在有機菜田幫忙種蕃茄、青瓜和蕃薯。一天，我們完成稻田的工作後，便到了河裡去游泳和吃西瓜，整個人頓時涼快多了！



另外一個家庭是土木工程公司主席犬童先生的家。犬童先生與太太 Karaimo 交流的擁躉，幾乎每年都會參加，家中還特為交流生準備了獨立的睡房！在我逗留的短短兩天期間，我跟著犬童先生一起到工地巡視業務，又與他的兒子一起蓋一



幢新房子，就是用吊臂將一箱箱瓦片一塊一塊整齊地鋪在屋頂上，有趣極了！又碰巧遇上太童先生的孫兒生日，我有慶參與小朋友的生日派對，認識到犬童先生一家之餘又跟一班小朋友們打成一片，感覺很溫馨。



瓦片運到屋頂上，然後我們將



除此之外，host dad 在休息的日子會帶我到超市購物，買



材料準備晚飯，途中我們二人更會去吃超市外的串燒和便利店的雪糕！回家後，我們就合力一起做飯，或者他在旁指導我做，令我的廚藝改進了不少。有一次他更駕車帶我去乘渡輪到櫻島參觀！櫻島的火山幾乎每天都會爆炸，遠看十分壯觀；而在櫻島就可看到島上的建築物、街道、樹木等被火山灰覆蓋的一面，嗅到濃烈的硫磺味，還可以近距離觀看火山及附近的遺跡，感覺猶如置身戰場一樣！另外，我們亦偶爾到鹿兒島市逛逛，滿足一下我在日本逛街的慾望。

說了那麼多，是時候介紹一下 host mom 了。她的日常工作十分忙碌，每天要分別在藥房和書店上班，正午十二時上班，回家已時午夜十二時了，所以日間我較少機會與她見面。儘管如此，她每天下班後也會一邊吃晚飯一邊跟我聊天，問問我今天做了些甚麼，有甚麼趣事發生等。她很喜歡喝酒，因此我們經常邊喝邊聊，心情特別暢快，我也很享受每天晚上這個閒聊



的時間。由於 host mom 的英文不及 host dad, 因此我們的對話只能以簡單的日語進行, 但她對我非常遷就, 而且遇到不認識的字會叫我查字典, 或者嘗試上網、查書給我說明, 然後我們明白對方的意思後便會哈哈大笑。Host dad 知道我喜歡電影, 還特意租了一些影碟讓我們在深夜時段觀看。Host mom 又預備了零食和飲料, 讓我們邊吃邊看, 然而 host dad 每次把零食吃完就會睡著。

在 host mom 7月25日生日的那天, 我和 host dad 親自為她做了生日蛋糕給她一個驚喜! 然後我送上了一支紅酒作生日禮物, 她感到非常意外。為了他們二人的未來著想, 我又盡力勸服 host dad 戒煙, 親自畫了一些 poster 貼在家中作警惕之用。Host dad 從每天十根香煙減少至四天總共少於十根, host mom 對此感到十分欣慰。臨走的時候, 我又以日文寫了一封感謝卡給他們倆, 還畫了我們三人的肖像, 後來 host mom 在 facebook 貼了出來, 說她感動得哭了。



他們真的對我很好, 希望我在未來有機會再回鹿兒島探望他們, 而他們也說好會來香港找我, 我們會透過 facebook 保持聯絡! 在此感謝香港中文大學日本研究學系及 Karaimo 交流負責團體給予我這個終生難忘的經歷。



English Summary:

I am grateful and honoured for being able to participate in the Karaimo Homestay Programme this year. It has been a wonderful and unforgettable experience, and maybe a once-of-a-lifetime journey. Joining the programme means a lot more than merely visiting Japan for the sake of improving one's Japanese. It is about being part of a Japanese family and live in the way as they do, and to learn about their culture throughout the period.

My host family is a couple named Yamada, who live in a simple but exotic wooden hut in the countryside of Yusui. They are at around their 40s and 50s, and work as part time workers at convenient stores, book stores and pharmacies. My host mom normally has two shifts in a day, from 12pm to midnight, so I did not get to meet her often at daytime. But, we did chat a lot at night after she returned home, and very often we drank cocktail or wine together while we were speaking of the day. Sometimes, the three of us would watch DVD together after midnight.

I spent most of the time with my host dad. When he had work in the afternoon, he often drove me to his friends' places so that I could meet more new friends, as well as to try out new experiences in different fields of work.

At first, I met a blueberry and black pig farmer called Mr. Kamizuru, who is quite famous in Yusui. I helped sticking labels on glasses of blueberry jam and the collection of firewood. Later one day, a reporter came for an interview of him, and he invited our family to help him out in preparing a picnic with the reporter. We had a great meal of somen and fruits. Afterwards we made our own jam and crushed ice.

Later, I met Miss Lee Mei, a Chinese teacher and exchange programme coordinator in Yusui. She invited me to participate in a community activity organised for local children. We caught fishes from the river, and had them barbecued in the community centre nearby. I also had a chance to play with lots of children, they were so passionate to me even though I could not speak much Japanese.

I also met Mr. Takeno and his family, who gave me the chance to work in a pumpkin field for him. Harvesting pumpkins was a tough job, but yet another wonderful experience.

Afterwards, I had been staying at two other families' places. The first one was Mr. Yamada Issei's place, who lives with his wife with three adorable children. We worked in the rice field together, and went to the river for swimming after work. The second one was Mr. Inudo's place, who is a big fan of Karaimo Homestay Programme. I helped his son in building their new house by aligning the tiles on top of the roof. And I was so lucky to have joined his grandson's birthday party.

When my host dad has a day off, we would go shopping at the supermarket and decide what to cook for the evening. He is a master chef and he taught me some cooking skills. We would sometimes pay a visit to Kagoshima city for shopping, and we even took a visit to Sakurajima to see the volcanos.

On my host mom's birthday on 25th of July, host dad and I made birthday cakes for her as a surprise. She was so delighted when she realised that. I also bought her a bottle of red wine as present. Just before I left, I wrote them a thank-you card, and my host mom cried after she saw it. My host parents were really nice to me and I really thank them for what they have done. I would also like to thank the Department of Japanese Studies, CUHK and the organiser of the Karaimo Homestay Programme for offering me this wonderful experience.

English Summary:

I am grateful for being able to participate in the Karaimo Homestay Programme this year.

相片



